

社会福祉法人養徳園

令和 2 年度事業報告

児童養護施設 養徳園

児童養護施設 氏家養護園

児童家庭支援センターちゅうりっぷ (P54~57)

夜間・休日体制整備事業 (P58)
(児童虐待緊急ダイヤル)

南小学童保育センター (P59~60)

令和 2 年度事業報告（養徳園）

1 運営全般について

令和 2 年度事業計画に基づき、基本的な生活援助の充実や心理面に配慮した援助に努めたほか、養育のガイドラインの策定を目指し、生活の質の向上、生い立ちの整理と育ちアルバムの実践、性的問題・子ども間暴力への対応、学習指導の充実、職業指導・リービングケア及びアフターケアの強化、施設養護におけるソーシャルワーク機能の充実、里親委託の推進を重点目標とし児童援助の向上に努めた。

また、給食、環境美化、安全管理、広報、運営改善の 5 つの委員会を設けて、職員の一致協力の下、施設運営にあたった。

広報誌「オアシス」を年 3 回発行するとともに、ホームページを通じ情報の公開に努めた。

2 児童の動向

(1) 学年別在籍数（措置児童）

令和 2 年 4 月 1 日現在（オアシスの家、野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	3	1		2		3	1	1	2	5	5	3			26
女	1	1	1		1			3	5	1		2		4	19
計	4	2	1	2	1	3	1	4	7	6	5	5		4	45

令和 3 年 4 月 1 日現在（オアシスの家、野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	3		2	1	3		3		1	2	3	4	2		24
女	2	2	2	1		1	1		2	3		0	2	1	17
計	5	2	4	2	3	1	4		3	5	3	4	4	1	41

(2) 月別入所者の状況（措置児童）

月	性別	初日 在籍数	入所数	退所後				月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職進学	その他	
4	男	25	1					26
	女	18	1					19
5	男	26			1			25
	女	19						19
6	男	25						25
	女	19			1			18
7	男	25						25
	女	18						18

8	男	25						25
	女	18	3				1	20
9	男	25						25
	女	20					1	19
10	男	25	1					26
	女	19						19
11	男	26		1				25
	女	19			1			18
12	男	25						25
	女	18						18
1	男	25	1	2				24
	女	18		1				17
2	男	24	2					26
	女	17						17
3	男	26		2	2			22
	女	17	2	1		1		17

(3) 一時保護委託（レスパイトケアを含む）利用状況

年齢・学年・性別	児相	期間	年齢・学年・性別	児相	期間
中3女	中央	4/3~8/28	中1女	県南	7/15~7/22
中2男	県北	4/6~5/16	高2女	県北	8/11~9/18
小2男	県北	4/10~4/23	5歳男	県北	9/10~12/28
中2男	県北	5/17~5/30	4歳男	県北	9/10~12/28
高2女	中央	6/2~7/15	5歳男	県北	9/16~10/1
高1女	中央	6/2~7/15	高2女	県北	9/22~9/25
中3女	中央	6/2~7/15	高2女	県北	9/27~10/2
中2男	県北	5/31~6/6	中2女	県北	10/16~10/19
中2男	県北	6/7~6/11	1歳男	県北	11/20~12/14
2歳男	県北	6/25~7/6	高2女	県北	12/7~12/20
1歳男	県北	6/25~7/6	3歳男	県北	1/19~2/1
小5男	県北	7/8~7/15	小6女	県北	1/25~3/1
小1女	県北	7/14~8/1	6歳女	県北	1/25~3/1
5歳女	県北	7/14~8/1	5歳女	県北	2/10~
4歳女	県北	7/14~8/1	3歳女	県北	2/10~

(4) 高校進学、卒園生の進路等

中学卒業生

さくら清修高校（在園）

文星芸大付属高校（みやこ家へ措置変更）
宇都宮短大付属高校（はなの家へ措置変更）
馬頭高校（在園）
飛鳥未来きずな高校（措置解除）

3 養護の状況

（1）給食

毎月行う献立会議を給食委員会時に行った。その話し合いを基に、子どもの発達に必要な栄養バランス及び嗜好を考慮し食事を提供した。

ユニット配布の献立様式を朝食の記載がしやすいように変更。委員会時には本園、分園、小規模の献立をまとめた資料を活用し、意見交換を行った。また食に対する意識向上のため、職員対象に調理実習を行った。

（2）健康管理

① 健康診断

嘱託医の花塚医師による健康診断を前期は令和2年6月8日、後期は令和2年10月17日に実施した。野沢歯科医院にて歯科検診は6月16日、6月19日に実施した。

② 予防接種 合計 29 名

日本脳炎 12 名 ヒブ、肺炎球菌 1 名 麻疹・風疹 2 名
2 種混合 4 名 子宮頸がんワクチン 12 名 インフルエンザ予防注射 33 名
四種混合 1 名 おたふく 1 名

③ 健診

3 歳半健診 1 名

④ 通院 392 名 うち内服処方 218 名

内科 30 名（花塚クリニック、尾形クリニック、黒須病院、きぬの里クリニック）
歯科 70 名（野沢歯科 和田矯正歯科）
眼科 28 名（早坂眼科、かとう眼科、国際医療福祉大学病院、）
皮膚科 16 名（檜山医院）
小児科 93 名（済生会宇都宮病院、おの子どもクリニック、岡医院、小林医院、
佐野医院、那須日赤、黒須病院、自治医大小児科）
耳鼻科 26 名（中川耳鼻咽喉科）
整形外科 47 名（半田クリニック、黒須病院、国際医療福祉塩谷病院、さくらクリ
ニック、柳田整形外科）
外科 15 名（根本医院、黒須病院、那須日赤、獨協医科大学小児形成外科、国際医

療福祉塩谷病院、藤井脳神経外科)
精神科、神経科 67 名（精神保健センター、自治医大子供のこころの診療科、とち
ぎリハビリテーション、国際医療福祉大リハビリセンター、
氏家病院、那須こころの医院 ）

⑤入院 0 名

（３） 援助の実際

① 生活の質の向上

「生活の質の向上とは何か」事前に各自の考えを提出。
集まった意見を元に衣食住の項目に分け、チェックシート方式にまとめる。
研修時にチェックシートを使用。

【1回目】令和2年9月23日

園長先生の考える生活の質の向上について講話。
7 グループに分かれ、最初に個人でチェックシートを読み込む。
〈チェックシートの項目〉

- ・「衣」
- ・「健康」「食」「睡眠」
- ・「住」
- ・「心」
- ・「時間」
- ・「その他」
- ・「職員自身」
- ・「質問・投げかけ・思い」
- ・「感想・イメージ・意見」

その後チェックシートを元にグループで話し合いを行う。
各グループで意見を発表。

【2回目】令和2年11月20日

小規模＋間接職員で4グループに分かれる。
グループごとに援助マニュアルを読み合わせる。
マニュアルの中の項目に合わせた事例を付箋で貼り付ける。
グループから事例を何個かあげてもらい発表。

今後の課題

子ども自身が「大切にされている」と実感できるためには、日々の生活の営みを改
めて見直す必要がある。
今後は援助マニュアルに職員の関わりが見える事例（失敗談も成功談もすべて含
め）を入れ共通理解を図れるようにする。

② 生き立ちの整理と育ちアルバム

【1回目】令和2年8月21日

1 就職して3年目までの職員対象に、「育ちアルバム」「育てノート」の概要説明
それ以外の職員は作業

2 絶対の載せる項目表の配布

3 質疑応答・感想

- ・アルバムと勘違いしていた。作るにあたって、関わりを意識していこうと思った
 - ・意図が理解できた
 - ・仕上がりにはばらつきがあると感じた。他の人のものを見ると刺激になった。まとめ方が素晴らしい方に、いろいろと聞いてみたい。置き場所を広くしてほしい
- ※令和2年度は、コロナのため、1回のみの実施だった

③ 性的問題・子ども間暴力への対応・被虐待児への治療的アプローチ

○性的問題・子ども間暴力への対応

1年を通して2回研修を実施した。

1回目は、『施設内暴力・性暴力の理解』をテーマに、全国的な統計からみる暴力が起こる傾向や、背景など全体で共有し、予防と早期発見のために、各グループで、生活場所の死角や構成メンバーの関係性などを話し合いながら理解をしていく作業を行った。

また、暴力等の事案が発生した場合、当事者とその周辺の職員しか理解しておらず、いつのまにか風化してしまうということが施設内暴力が起こる要因の一つともされており、起こった事案を施設全体で取組めるようにするための、報告書の在り方（必要記述の内容と事案発生後の対応等）や事案発生後の対応方法などを話し合い、理解の個人差はあるが、自分が対応するかもしれないということを意識し、どう対応するかというイメージを共有した。

2回目は、施設内で起きた事案を事例とし『自分達ならどう理解し、対応するか』という視点で、各グループで話し合いをした。虐待によるトラウマ、そのトラウマによる再現性の問題、アタッチメントの問題、施設入所後のトラウマ等、子ども達が背負わされている課題はどの子どもにも多少なりとも通ずるものがあり、そして職員は相手（子ども）が違うとしても、生活場面のケアの中でこうした問題に直面することが多々ある。子どもも大人も渦中の人、身動きがとれなくなり、支配の渦に巻き込まれてしまいがちであり、今後も起きる可能性が高い現場において、このような問題を未然に防ぐために、自分達（現在のユニットの職員メンバー）ならどんなケアや

対応を考えられるかのか話し合い、全体で共有した。

○被虐待児への治療的アプローチ

児童相談所による面接は、それぞれの子どもの必要性に応じて、児相の心理職員が来園し本園にて面接が行われた。また、県北児相の被虐待児フォローアップ事業に3名（小4女児1名、小3男児2名）が月1回の割合で参加し、グループワークが行われた。（感染症の影響で、前半は中止）

施設内の心理療法は、令和2年度も心理療法実施指定施設の認可を受け、20名の児童に対してプレイセラピー、面接（心理検査、入所アセスメント面接を含む）、生活場面面接等を実施しながら心理療法を行った。実施回数は以下のとおり。

心理療法 237回 生活場面面接 24回 コンサルテーション 96回

この他、直接子どもと関わらずに、児相、学校、病院等のカンファレンスや情報交換などに参加させてもらい、子どもに対して、共通の理解が得られるよう努めた。

成果と課題

前年度に引き続き、子どもの個別面接について、対象児童にはできるだけ毎週1回の時間を確保し、誰にも邪魔されない、自己表現の場として、さらに自分の悩みや生い立ちに向き合えるように、環境を整え治療と養育のバランスを考えながら実施してきた。

また、昨年度卒園を控えた高校生の面接から卒園後のフォローの必要性も感じたため、今年度はアフターケアとして、面接を希望する卒園した子どもに対しても定期的に面接を実施した。

さらに今年度は、昨年度里親委託になった子どもの里親への面接を継続的に行った。里親委託後、子どもは、里親との間で様々な行動化を見せる。委託後は里親がすべて対応することになり、里親自身が子どもの行動に、疲労し、困惑、自信喪失等々揺れる。その過程を里親支援職員と連携しながら関わってきた。里親と子どものやりとりの過程は、施設職員が子どもと関係を築いていく過程とまた違うものがあり、里親から子どもの様子や葛藤をきかせてもらい、施設の職員として、考えさせられることが多く、サポートの在り方も多様であり今後の課題と感じた。

④ 職業指導、リービングケア及びアフターケアの強化

25年度より職業指導員が配置された。主な目的として、退所後の社会生活を想定して、生活に必要な知識及び経験を通しての技能の習得を支援する。（リービングケア）さらに、

施設退所後の進学・就労を含む生活状況を見守り必要に応じた支援を行うことで、地域生活・職場への定着を図り社会的自立を促すこととした。（アフターケア）

具体的な取り組みとして、高校生は栃木ユースアフターケア事業協同組合主催の自立支援プログラムへの積極的な参加を促し、「性教育」「ネットの危機管理とセルフコントロール」「社会に役立つコミュニケーションについて」「法律教室」「料理教室」「テーブルマナー」（コロナ感染予防からテイクアウト形式で実施）研修などを通して自立への意識向上のきっかけ作りを行った。

またアフターケアとして、『ん太郎』氏の「短足おじさん」の会にお世話になり「成人式着物プロジェクト」において、卒園生への着物着付け・記念写真撮影等に参加して貴重な思いで作りの支援を行った。

さらに職員も支援意識向上のために、10月に「本当の自立とは」という園内研修を行った。内容は、子どもたちの将来像をイメージしながら「本当の意味での自立とは」について話し合った。卒園生の安定した生活を目標に、支援の意識を高めながら対応していきたい。

⑤ 学習の充実

係：南部・栗林・平野・稲田・大島

4月

6月 園内研修打ち合わせ

資料作成

6月 園内研修

《公文に取り組んでいた中・高生の今》グループ討論

10月 公文ミニ表彰（学年超え・学年相当・多枚数・多読）

11月 創立記念日 公文表彰1名

3月 公文ミニ表彰

（反省）

今年度の園内研修は、昨年に引き続き《公文に取り組んでいた中・高生の今》と題し、児童5名の事例をもとにグループ討論を行った。これまでの養育の中で、良かった点・悪かった点・こうした方が良かった点等を話合った。たくさんの意見が飛び交い、中身の濃い研修になった。

10月と3月に○金「学年超え」、○銀「学年相当」、○銅「多枚数」「多読」のミニ表彰を行い、11月の創立記念日では1名の子どもに「公文賞」が与えられた。子ども達が自らコツコツ学習できるきっかけになればと願う。

（今後）

宿題や公文学習の取り組みは定着している。引き続き学習習慣の定着と、職員のスキルアップを図っていきたい。

算数は、小学校卒業までにE（分数の計算/生活に必要な能力が身につく）教材

終了を目指したい。国語は、個々のレベルに応じ音読・読解力の向上。さらには、学年相当・学年超えの子ども達を増やしたい。そのためには、月々の枚数を増やさなければならず、さらなるユニット公文の充実が不可欠である。

⑥ 施設養護におけるソーシャルワークの機能の充実

「関係機関の虐待対応と、ペアレントトレーニングについて」

R2 年 12 月の園内研修は関係機関が虐待を発見した時の対応について研修を行った。外部の関係機関が虐待に遭遇した際に、どう接するのか。神奈川県秦野市が保育園職員に行った虐待対応の紙芝居を実際に養徳園職員にみてもらった。

紙芝居の内容は、

【前半】「保育園職員が不審なあざを保護者に伝える通常の対応」

- ・虐待は継続し、暴力を止めることができない。
- ・疑われた保護者は子どもに恥をかかされたら虐待は継続し、傷あざは増えていく。

【後半】「不審なあざを保育士だけで抱えこまない対応」

- ・保育士から園長を通じて、市の子育て支援対応課に通告する。
- ・市が保護者を含めた関係者で虐待が起こらない環境を整えていく。

紙芝居終了後、児家センちゅうりっぷが保護者対応でよく使うペアレントトレーニングを参加者同士で練習するワークをした。

ワーク後の質問は実際に児童家庭支援センターちゅうりっぷで対応する具体的なケースはどんなものかということだった。

今後の課題

保育園で起きた虐待場面をどう対応するかは、役割は違えど、同業種として、対応するイメージを共有できると思われる。今後も多職種と連携するソーシャルワークを浸透させていくことが大切である。

⑦ 里親委託の推進

令和 2 年度里親支援専門相談員の活動状況

○毎月第 3 火曜日 県北地区里親サロンへの参加

○里親支援部会への参加(今年度部会長)

第 1 回 7 月 15 日(水) 場所：栃木県庁 今年度の予定について

第 2 回 9 月 30 日(水) 場所：中央児童相談所 中央児相岩井課長による講義

「里親委託に向けて必要な支援について」

11 月 1 日(日) 虐待をなくそう！県民のつどいにて普及啓発活動

第3回 11月18日(水) 場所：栃木県庁 マッチングマニュアルについて

この他に里親支援専門相談員部会だより作成のための集まり、マッチングマニュアル作成のための集まりに参加。

○長期休み中のふれあい里親

○里親登録前研修施設実習受入(10月2,3日)里親16名、他施設職員、児相職員参加

内容：園長講話・施設職員の話・児童との交流

○里親登録前研修 座学2日目(11月10日)に参加 (栃木県庁河内庁舎)

○里親委託に向けたマッチング 里親委託に向けて

○里親制度の普及啓発

・11月1日 場所：男女共同参画センターパルティ里親支援部会員による啓発活動

第11回子ども虐待をなくそう！県民のつどいにて

・里親交流会について養徳園ホームページ養徳園日記に掲載

○里親の日

・里親交流会(氏家養護園と合同) R2.10月11日(日)鬼怒グリーンパークにて

里親・子 47名

里親希望者 2名

養徳園子ども・職員 24名

氏家養護園子ども・職員 37名

県北児童相談所職員 9名

計124名参加

・県の未委託里親対象養育体験 烏山市 田崎里親 7月18日(土)

・その他 ・那須塩原市 里親希望 (今年度後期の研修を受けている)

7月12日(日) 7月25日(土) ユニットに入り子どもと交流

○里親レスパイト受け入れ

A里親宅里子 8月3～5日 3日間

○里親委託後の家庭訪問

B里親宅 2回 平成28年4月委託(5月8月)

A里親宅 2回 平成28年7月委託(5月11月)

C里親宅 4回 平成31年3月委託(5月7月9月1月)

D里親宅 8回 令和2年3月委託(4月5月6月7月8月9月
11月2月)

(4) 社会教育への参加

① サッカー教室

中学3年2名が地域のサッカー教室に参加。

(5) 育成会活動

養徳園では、地域交流の一つとしてさくら市子ども会連合会に養徳園子ども会として小学生以上から高校生、ケアワーカーを主に育成者として入会し、子ども会へ参加してきた。

また、野辺山の家も地域の子ども会に入会し行事等に参加している。

活動内容

コロナ感染防止に配慮しながらユニットごとのお楽しみ会、キャンプ、日帰りや一泊での旅行、一万人プールを少人数で実施した。

成果・課題

コロナ禍において例年のような行事は行えなかった。今後も感染の動向を見ながら子どもたちの活動の場を模索していくことになるだろう。

子どもたちの安全面から、登下校の交通指導はこれからも継続していきたい。

(6) 防災訓練等

活動内容

・年間防災訓練計画の作成、それに基づき各月に避難訓練及び消防訓練を行う。また、緊急連絡網の作成、緊急時対応マニュアルの配布、各ユニットに避難経路等の確認を行う。さらに12月には喜連川消防署による総合消防訓練として、通報訓練・避難訓練、水消火器による実習訓練を行った。非常時用バッグ、非常時の備品、賞味期限など定期的に確認して万一の事態に備えている。

職員は、7月に「AED」講習を受けて、使い方を体験・経験した。

成果・課題

・避難訓練は各月に実施。その訓練時には講話を行い、防災意識を高めるために、火の特徴・煙の怖さ・火事の原因などのイラストを見せ説明を行い、子どもたちも関心をもって参加している。

・12月の総合消防訓練は、消防署員に協力いただき実施して、万一に備えての貴重な経験になった。

・非常食の賞味期限を確認して、処分・不足分補充を行った。

・非常時防災バッグの中身のチェック、補充を行った。

4 委員会活動

別紙参照

5 行事

種別	日時	行事名	場所(行先)	参加者数		
				児童	職員	その他
行事 園内	7/4	七夕	園庭	21	10	

	7/19	奉仕作業	園庭周辺	全員	全員	
	8/3	夏休み外出(たんぽぽ)	インターパーク、宇都宮動物園	5	4	
	8/4~5	一泊旅行(野辺山の家)	鬼怒川方面	5	3	
	8/4	太陽の丘キャンプ(野沢ホーム)	太陽の丘、千本松牧場	6	4	1
	8/4~5	一泊旅行(すずらん)	茂木方面	5	3	
	8/5	一万人プール(なのはな)	一万人プール	3	2	
	8/6	一万人プール(すずらん)	一万人プール	5	3	
	8/6	一泊旅行(オアシス)	山形方面	5	3	
	8/11	日帰り外出(あすなろ)	ラウンドワン、ベルモール	4	3	
	8/14	パン作り	食堂	12	5	
	8/22~23	一泊旅行(なのはな)	鬼怒川方面	3	2	
	9/19~20	一泊旅行(福田ホーム)	鬼怒川方面	5	6	
	10/5	七五三前撮り	大田原スタジオアリス	6	7	8
	10/11	里親交流会	鬼怒グリーンパーク宝積寺	14	15	95
	11/7	七五三	御嶽山神社・食堂	40	20	
	11/26	創立記念日	生活指導室、食堂、研修室	46	43	1
	12/7	総合避難訓練	園庭			
	12/13	奉仕作業	園内	全員	全員	
	12/24	クリスマス会	各ユニット	全員	36	
	1/7	カレンダー製作	食堂	36	10	
	3/3	ひな祭り	各ユニット	33	13	
地域交流	新型コロナウイルス感染防止のため実施されず					
施設交流						
招待事業						

6 施設の社会化

(1) 生活指導室の地域開放

市居合道部が毎週月・水・金、練習のために利用している。

(2) ボランティアの受け入れ

6/6	宇都宮グランドホテル	昼食提供
7/11	光と風の家	本読み聞かせ
8/3	アルゼンチンサッカークラブ	ボールを使ったスポーツレクリエーション
9/19	土屋利夫	サツマイモ掘り

9/22	セブンハンドレッドクラブ	サッカーゴルフレクリエーション
11/24	さくら市更生保護女性会	球根植え
2/20	森と家をつなぐ会	家具製作
2/21	林香君	陶芸教室

(3) 社会人先生

令和2年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から開催を見合わせた。

(4) 感謝の日

令和2年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から開催を見合わせた。

7 施設見学・研修・実習生の受け入れ

(1) 施設見学・研修

※施設見学は新型コロナ感染拡大防止の観点から受け入れなし。

(2) 施設実習

・保育士

作新大学短期大学部	7名	佐野短期大学	2名
TBC	4名	白鷗大学	2名
足利短期大学	2名	足利短期大学	2名
宇都宮共和大学	2名	東京家政大学	4名
山梨県立大学	2名	川口短期大学	1名
埼玉純真短期大学	2名		

・社会福祉士その他

国際医療福祉大学	4名
----------	----

計 32 名

8 職員研修

(1) 法人内研修

・社会福祉施設の運営（新任）

大谷園長、豊岡事務長(4/22)

・広い視野を持つための勉強会（新任）

尾瀬(6/3)

・アタッチメントとトラウマの理解（新任職員）

東(6/17)(7/9)

・レジェンドとの座談会（新任職員）

加藤、森、斉藤、酒井(12/9)

- ・施設の暮らしを考える勉強会

総合施設長、石川浩子さん（はなの家）（10/19）

総合施設長ZOOMにて（2/15、3/15）

- ・権利擁護と養育の基本

総合施設長（9/2）

- ・中堅・若手が語る児童養護（コロナ感染拡大防止のため資料配布）

手塚、稲田、小暮

（２） 園内研修

- ・事業計画における重点目標について園内研修を実施した

〈施設処遇援助事業〉

性教育担当者養成研修（2/26 ZOOM）寺澤、薄井

管理者研修（2/18 中央児相）園長、加藤

（３） 施設外研修

日 時	研 修 名	場 所	参 加 者
1/9~1/11	第３回 FLEC フォーラム ～社会的養護の健全な発展のために～	オンライン研修	赤羽
2/26	施設内性問題対策 ～2019 年度の性教育担当者養成研修の振り返り～ 講師：児童養護施設一宮学園 副施設長 山口 修平 氏	オンライン研修	薄井・寺澤

栃養協研修事業及び部会研修

	日時	研 修 内 容	場 所	参加者
新任職員研修	6/18	・基本的な理解と養育者としての心構え 講師：福田 雅章 氏 ・措置制度と児童養護施設の現状と課題 講師：藤田 早 氏	青少年センター	古川・金子・伊藤・ 安藤・柏崎・安齋
	7/21	・社会人としてのマナーとチームワークに貢献する仕事の進め方 講師：(株)ワークエントリー 野崎 千晶 氏	教育会館	古川・金子・伊藤・ 柏崎・安齋
	10/8	・子どもの心理(乳幼児期・児童期・思春期・青年期) 講師：兪 幀蘭 氏 ・児童養護の歴史とこれからの社会的養護について 講師：福田 雅章 氏	とちぎ青少年センター	古川・金子・伊藤・ 柏崎・安齋

	11/27	・トラウマを抱える児童に対する支援について 講師：中山 和幸 氏	とちぎ青少年セ ンター	古川・金子・伊藤・ 柏崎・安齋
若手 職員 研修	8/3	・ペアレントトレーニング(基礎コース1日目) 講師：秋場美智子 氏	とちぎ青少年セ ンター	藤田・中西
	8/24	・ペアレントトレーニング(基礎コース2日目) 講師：秋場美智子 氏 ・社会的養護内容3・4 アドミッションケア・インケア 講師：福田 雅章 氏	とちぎ青少年セ ンター	藤田・中西
	9/23	・臨床発達心理 1・2・3・4 講師：秋場 博 氏 (乳幼児期・学童期・思春期・青年期) ・子どもの権利を守るための取り組み 講師：館野 太一 氏	とちぎ青少年セ ンター	藤田・中西
	11/6	・障害者福祉の仕組みと事例検討 講師：若倉 健 氏 ・被措置児童等の権利擁護・虐待根絶のために 講師：山田 勝美 氏 ・令和元年度長期派遣研修報告会 発表：中村いつみさん 発表：津久井理恵子さん	とちぎ青少年セ ンター	藤田・中西
中堅 職員 研修	7/8	・リーダーシップと組織のマネジメントについて 講師：野崎 千晶 氏 ・社会的養護内容 リービングケア・アフターケア 講師：福田 雅章 氏	とちぎ青少年セ ンター	手塚・万年・稲沢
	10/20	・新任職員を支えるための指導・教育(スーパーバイズ) 講師：田中 浩之 氏 ・こども間の暴力防止について～スーパービジョンの観 点～ 講師：藤岡 孝志 氏	とちぎ青少年セ ンター	手塚・万年・稲沢

上級職員研修	9/11	・児童福祉を取り巻く現状について 講師：湯澤 典子 氏 ・施設の管理運営とマネージメントについて 講師：藤本 早 氏 ・社会的養護における人材育成 講師：坪井 真 氏	とちぎ青少年センター	平野・矢部
	12/10	・職員のメンタルヘルスとその対応について 講師：天野 託 氏 - 施設のチームケア・組織力について 講師：田中 浩之 氏	とちぎ青少年センター	平野・矢部
被措置児童虐待	11/16	被措置児童虐待防止研修 ・社会的養護における高度な専門性を執拗とする知識や援助技術に関すること 講師：山田 勝美 氏	とちぎ青少年センター	藤田・中西・古川・金野・伊藤・柏崎・安齋・藤田・中西
施設長	7/14	・第1回施設長会議	県庁	福田/加藤(準)/小川
	10/14	・第2回施設長会議	県庁	〃
	12/7	・第3回施設長会議	県庁	〃
		・第4回施設長会議	県庁	〃
ケアワーカー部会		児童養護施設最低基準・運営指針について 講師：藤本 早 氏 先輩方からのアドバイス ○施設の先輩職員方		
	10/17	・第3回ケアワーカー部会研修会 講師：福田 雅章 氏	中央児相	
	3/4	・第4回ケアワーカー部会と心理部会合同研修会 講師：児童養護施設 至誠大空の家施設長 国分 美希 氏	県庁	
家庭支援専門相談員部会	9/29	・児相職員との情報交換会 「親支援での困りごと」グループディスカッション	中央児相	
	11/25	・家庭支援専門相談員部会研修会 講師：青少年の自立を支える会所属 直井 茂 氏		

心理部会	3/	・児相判定業務連絡会との合同研修 グループ討議「施設での心理検査実施について、自立に向けた支援（児相・施設心理との連携）」		
	3/4	・第4回ケアワーカー部会と心理部会合同研修会 講師：児童養護施設 至誠大空の家施設長 国分 美希 氏		
里親支援部会	9/30	・「里親委託に向けて必要な支援に向けて」 講師：中央児童判定課課長 岩井 幸祐 氏		
調理員部会	11/22	講師：学校法人 三友学園 IFC 調理専門学校 福田 信夫 氏		船山/窪田
職業指導員（ユースアフター）	7/7	・発達障害の基本的理解、自立支援制度及び発達障害者支援センターについて 講師：障害者騒動相談所発達・高次脳機能障害支援課 主査 小貫 泰広 氏 ・発達障害のある中高生の理解と周囲の関わり方 講師：作新学院大学人間文化学部教授 高浜 浩二 氏	とちぎ青少年センター	
	11/12	・チームアプローチによる支援方法について 講師：宇都宮共和大学 准教授 石井 真紀 氏	とちぎ青少年センター	

令和2年度 地域小規模児童養護施設事業報告

『オアシスの家』

平成19年11月1日（土）開所

子どものメンバー

令和2年4月1日～令和3年3月31日 6名

幼稚園年中女児	1名
小学5年男児	1名
中学2年男児	1名
高校1年男児	1名
高校2年女児	1名
卒園児 女児	1名

・職員 4名

人見（女）	保育士
平野（男）	保育士
古川（女）	指導員
佐藤（女）	非常勤

令和2年4月1日よりオアシスから卒園した子が、仕事が続かず生活の安定を図るためオアシスに戻る。令和3年1月31日より那須烏山にて1人暮らしをする。

○通学状況

- ・喜連川幼稚園
- ・喜連川小学校
- ・喜連川中学校
- ・さくら清修高等学校
- ・矢板中央高等学校

○行事報告

- ・令和2年8月6日～7日 山形方面に一泊旅行
- ・令和3年2月21日 ハンターマウンテンにてボードをする

○定期通院状況

- ・現在は特になし

○生活状況

- ・新年度から新しい子どもが2名入ってきてにぎやかになるも落ち着いて新学期をスタートさせた。
- ・幼稚園女児、最初はおとなしかったが慣れてくると元気に遊びまわっており、不安もすぐ

なくなり、オアシスでの生活を楽しんでいる。

・小5男児、オアシスに来るときも不安もなく最初からとても元気で生活する。落ち着きがなかったりして学校より連絡が入ることも多かったが話をすると理解をし、とても素直。オアシス楽しいと話す。

・中2男児、学校のテストでもいつも上位にいて勉強頑張っている。また部活も野球部に入り徐々に上手になり楽しく活動している。

・高1男児、さくら清修に入学。すぐに学校生活にも慣れて友人も多い。部活もサッカー部に入りとても精力的に活動している

・高2女児、マイペースで生活している。学校帰りは友人と遊ぶことが多い。学校も休むことなく行っている。

・卒園児、話し合いをして療育手帳取得。就労支援にて仕事を10月より始める。一人暮らしをするために頑張っていた。2月より一人暮らしをする。3月の誕生日に二十歳になるため措置解除となる。

○今後の課題

・卒園する子、進学する子、新しく来る子どもなど環境の変化があるので、個々が落ち着いて生活できる環境を配慮し、将来に安心感が持てるようにしたい。

『野辺山の家』

平成22年 4月1日（木）開所

子どものメンバー

令和2年4月1日～令和3年3月31日 5名

小学3年 男児 1名

小学5年 男児 1名

中学3年 男児 1名

高校1年 男児 1名

高校2年 女児 1名

・職員 3名

菅 原（女）保育士

金 澤（男）指導員

小 林（女）非常勤

○通学状況

・喜連川小学校（徒歩）

・喜連川中学校（自転車）

・高根沢高等学校・宇都宮青葉高等学園（自転車・バス・電車）

○行事報告

令和2年5月2日 GW お楽しみ BBQ (家の庭で行う)

令和2年8月4日～5日

野辺山1泊旅行(巨大迷路パラディウム・ラフティング・鬼怒川温泉)

令和2年8月3日～7日 野辺山育成会ラジオ体操

令和2年12月13日 野辺山庭 BBQ

・季節の行事は子どもたちと一緒に室内を装飾し行事に合わせたメニューを調理し由来を伝えながらお祝いをした。クリスマスは子どもたちのアイデアで協力しパーティーを行うことができた。

・コロナ禍でなかなか外出できなかったが、庭で BBQ をして楽しい時間を過ごした。

・誕生会はみんなで誕生者のお祝いし、誕生外食で担当 CW と 1対1 の時間を大切にした。

・コロナの影響で外食など子どもたちの要望に応えることが難しかった分、テイクアウトなどで工夫した。

○定期通院状況

・高校1年男児 黒須病院内科

コレバインミニ 83% (コレステロールを下げる) 1.81g 朝夕一包服用。

コレステロール数値が高いため通院。小児科から内科に移行した。体質か遺伝かどちらともか長期的な観察が必要。定期的(半年)に検査。要観察。

・小学5年生 男児 とちぎリハビリテーションセンター

パルプロ酸 200m アキモキセチン 10m 朝夕1錠服用。

7月22日 脳波検査異常なし

○心理士によるセラピー(本園:毎週1回実施)

・高校2年 女児 1名

・中学3年 男児 1名

*大人も、さまざまな角度からアドバイスをもらい子どもたちとの関わりを見直ししながら実践し体験を通して学ぶことができた。

○生活状況

・プライベート空間や境界線など、子どもと話しながら自分の時間を過ごすようにした。

・近場や家で、全員で共有できる時間を持つことで、自分の気持ちを言葉にできるようになってきていると思う。

・小学男児2名は、生活に慣れるにつれ辛かった生い立ちを話せるようになった。また、駄々をこねる、甘える、泣くといった表現ができるようになってきている。

・高校1男児はコレステロール値が安定している。遺伝の可能性が高いかもしれないとの

ことで食事制限がなくなったが、本人なりに食するものを気にするようになった。服用に際しては忘れやすいため声掛けが必要。

- ・中3男児は不登校になる。前年度から先が見えない不安から現実逃避の言動がみられ、受験が近づくにつれ、心配になる言動が増えたためセラピストの面接をしながら少しでも本人のストレスが軽減できるような関わりを心掛けた。

- ・高校女兒は、勉強、検定、アルバイトを積極的に取り組んでいたが人間関係がきっかけで自傷的な行為が始まった。失敗を繰り返しながらも頑張っている。

○今後の課題

- ・子どもの言動や変化に気を配り一人ひとりが落ち着いて生活できる環境。共同生活において個々の思いや考え将来をイメージし話せる雰囲気作りに心がける。

- ・地域との交流

令和 2 年度各委員会報告

『給食委員会』

※実施内容については別紙参照

《食に関して》

- ・食育に対しての意識が高くなり、朝食も、この 1 年でレポートリーが増えた。また、全ユニットの献立が参考になった。献立の記入も定着し、同じメニューが続くことがなくなり工夫するようになった
- ・本園のメニューも、外だしユニットのメニューを参考にさせてもらったり、とても参考になった
- ・朝食献立、分園の食事を改めて確認することができて参考になるメニューや改善点などを話し合えたので良かった
- ・調理実習など、メニュー案や段取りが悪かった
- ・コロナの影響があったとはいえ、子ども達との調理体験の場が、あまり持てなかったのも、次年度はもっと行いたい
- ・料理指導（実習）が中途半端になってしまった。目的がはっきりしないままやっていたのではないだろうか
- ・分園の職員さんが作る献立は自分たちが思いつかないようなメニューがたくさんあるので、今後も参考にさせてもらいたい
- ・小規模は、今まで献立会議に参加していなかったが、今年度参加し、各ユニットのメニューを知ることができ参考になった。メニューを提出することで、献立を意識するようになった
- ・調理実習で朝食のレポートリーが増えた。今までなんとなく作っていた料理も、きちんとした作り方、調味料で作ることの大切さを学んだ。来年度も続けてほしい
- ・献立について、全ユニットの情報を共有することによって、委員の人以外にも食に興味を持ってもらった
- ・本体夕食、材料の質のアップや、新メニューの工夫が困っていることを知るにあたり、抱える課題が食にだけでなく、対子どもとの問題や、職員間の関係性にも共通しているのが見えた
- ・他のユニットの朝食メニューを知ることができ参考になった
- ・調理実習を企画していただいたおかげで、色々な食材の調理法をすることができた

《畑の活用について》

- ・R2 年 6 月 6 日にマルチ張り。10 月に収穫した
- ・職員の業務多忙により、手間をかけない作物を畑で作るようになっている

- ・さつま芋苗は野沢則子さんより昨年度まで無料でいただいていた。しかし、今年度は3,000円で購入した
- ・マルチ張りは養徳園職員や子どもたちで行った。大勢いることでの盛り上がりはすばらしかった一方、人が多すぎて指示は通りにくかった
- ・さつま芋は雑草が出にくく、畑の管理もしやすい。収穫された芋は、昨年よりもやや大きかった。ただ植えた場所によって収穫量が少ないところもあった。準備段階でこまめに耕し、土壌改良として、たい肥やもみ殻くん炭をまくのもよい
- ・苗を植えた日がとても暑かったこと。苗の植え込みが浅いために、枯れてしまう苗が多数あったことを考えると、植え方を講義し、また子供にさせる場合は大人が一つ一つの苗をそばで見えておく必要があった
- ・さつま芋がたくさん収穫できたので、干し芋とかに挑戦すればよかった（最後の頃、腐らせてしまった）

《委員会活動について》

- ・今年は、月1回員会で集まることができ、そこで情報交換や食の悩みなどを話し合えたのが良かった
- ・献立に関する意見を聞かせてもらえて良かった。次に作る時の参考になった
- ・毎月、給食委員のメンバーで、献立会議を行うことで月々のメニューの変化や、会議で出た意見を反映することができたと思う。各ユニットの朝食メニューを知ることができ参考になった
- ・毎月集まって献立について話し合いができたことが良かった

《その他》

- ・園内研修での「質の向上」をきっかけに、ユニット内で食育について話し合いを持つ機会が増え、見直すことができた
- ・夢でのおやつ作り（季節のものを使ったり）が、あまりできなかったのが、来年は意識していきたい
- ・テーブルマナーを実施できず、残念だった
- ・研修は、コロナの関係で難しかったが、他施設の食育について取り組みを知りたい。見学、テーブルマナーも実施してみたい
- ・分園も、栄養士の専門職に「突撃訪問」をしていただき、様子をみてほしい
- ・「料理の手引き」は、活用されているのだろうか？料理が苦手で終わらせるのではなく、「楽しい」いしていくにはどうしたらいいか今後の課題。子どもの食育もそうだが、職員の食育にも関わっていくべきではないだろうか？
- ・毎月の食育日より、旬の食材や行事食の意味を子どもたちに伝えることができた
- ・誕生日に、調理職員がユニットに入ってくれることで、希望以上のメニューを提供できた。

誕生日だけでなく、日常の食の様子みてもらえたら、食育が身近になると思う

- ・ユニットの、給食委員会以外のメンバーもメニューに関心を持つようになった。献立の内容を考えてくれるようになった
- ・嗜好調査が1回だけだった
- ・食器などの買い直しができたことはよかった

委員会以外の方の意見

- ・今年度の給食員会は、とても活発に様々な取り組みをしていた。特に、月一度、各ユニットに配布していた「献立会議だより」は手間がかかったと思うが、とても良い企画だと思った。また、園全体の食の質を高めようとする熱意が伝わってきて、日々の食事作りの大切さが改めて再確認できた

『環境美化委員会』

環境美化の目的

日々の生活の中で、子ども達が「自分は大切にされている」という肯定感を育めるような調和のとれた心地良い住環境作り。

年間活動

担当の場所を決めて、必要に応じて各担当が随時活動を呼びかける。

年2回の奉仕作業の計画、実施。

朝、週2回の園庭の清掃。

園内研修（質の向上）

事業内容・反省

修繕 (豊岡)	定期点検(網戸・レール・戸・非常灯・壁等)を促し、毎月の職員会議にて各ユニット等から修繕箇所を申告してもらい、業者に依頼。
花壇・園庭 (滝澤)	更生保護女性会によるちゅうりっぷの球根植え助かっています。木の剪定、どこまで切ってよいのか？
衛生の日 (小口)	月1回の職員と子どもと一緒に居室を掃除することへの呼びかけ（1年間のポスター作り,告知）、半年分しかポスターが作れなかった。朝の打ち合わせで、告知洗濯場の清掃用具の管理が出来なかった。ワックスの補充。来年度は、乾燥機の後ろにある、デッキブラシ、バケツ、モップを処分したいです。

草刈り (万年、松本)	例年に比べて、草刈りを行う頻度が少なかった。 草刈り機を1台購入したい。
生活指導室 (大島)	昨年度、不用品を一気に捨てたので、今年は比較的きれいだった。行事、子どもと遊んでいる時に状態を見る。 外の花壇手つかずだった。
1F廊下、下足室 (寺地)	下駄箱の清掃、ワックスが、2回。 時間を有効に使い、少しの合間に少しずつ出来たらよかったと思います。
オアシスの修繕 (佐藤)	季節ごとに花を植え、自家菜園をした。草刈り。木の剪定。 来年度は、プランターで栽培できる野菜などを検討。 料理に使える、ハーブ類を作付けしてみたいです。 反省点として、草を生やさないようにこまめに草刈りをしていけたらと思っています。
野辺山の修繕 (小林)	湿気が多いので、すぐにカビが出来やすく、特に水を使う場所はゴミがつき、黒カビが出来てしまう。気が付けば、洗うようにしています。年2回の大掃除。庭の草刈り3回。エアコンフィルター掃除。 業者の方に屋根の下の壁の修理。 ボランティアの方に壁の穴の修理 畳が傷んできたので、カーペットを敷く。 来年度やりたいこと ・カーテン洗い ・ムカデ対策。
福田ホームの修繕 (滝澤)	浄化槽の清掃、プランターで、花と野菜を育てた。下駄箱扉、外れたのを修繕。壁の穴修理
たんぼぼの修繕 (寺澤)	・浴槽の湯あか取り・プランターで野菜を育てた。 ・洗面台の掃除 壁直し ・ワックスがけ ・カウンター購入
すずらんの修繕 (万年)	・ワックスがけ ・家具新調 ・ベランダ清掃 ・個室入口の修繕 来年度は、個室の壁の修理をしたい
あすなろの修繕 (小口)	・入り口の扉直し・ベランダの物置直し。 ・ゴミ箱直し。

野沢ホームの修繕 (大島)	・ガラス修理・エアコンの室外機の底上げ。 ・網戸の張りかえ・花壇の整備。
ちゅうりっぷの修繕 (福田す)	・中庭側の窓のカーテン設置・布団の整理 ・ワックスがけ　・浴室の掃除 ・網戸の張り替え・カーテン洗い・畳の交換

事業実施内容

4月	今年度の事業計画・衛生の日・面接室前倉庫清掃
5月	衛生の日・階段下倉庫清掃・1F男子風呂清掃
6月	衛生の日・ウサギ小屋付近の木や草の清掃・除草剤散布 剪定した木をゴミステーションへ運ぶ・駐車場の穴埋め
7月	衛生の日・奉仕作業・草刈り・除草剤散布
8月	衛生の日・草刈り・中庭清掃・落ち葉掃き・木の枝切り・花壇のブロック並べ、土入れ
9月	衛生の日・草刈り・中庭の砂場の砂取り・除草剤散布 カンファレンス室清掃
10月	衛生の日・布団部屋清掃・南廊下倉庫清掃・各ホーム清掃
11月	衛生の日・園内研修の打ち合わせ
12月	衛生の日・奉仕作業
1月	衛生の日・1Fお風呂場清掃
2月	衛生の日・生活指導室清掃・パソコン処分
3月	衛生の日・今年度の反省・冷蔵庫の処分

5月9日～ 火、木、草むしり 10分程

9月 火、木 ゴミ拾い or 草むしり

10月 火 ゴミ拾い

段ボール等古紙が集まったら、その都度、えがおの手塚さんにショートメールで連絡をし、取りに来てもらった。

(反省)

- ・火、木の草むしり、夏休みを挟むといつの間にかやらなくなってしまう。
- ・今年は、除草剤をまいたので、綺麗が続いた。
- ・1Fのお風呂場にある行事関係の物、使った人は、あった場所、元通りにしまってほしい。
- ・毎月、委員会の日があり、意識づけできた。
- ・15日にとらわれず、集まれる日を作り、来年度も清掃していきたいです。

『安全管理委員会』

1. 防災

- ・避難訓練：各月の担当について、職員会議において担当ユニット・個人名でお願いした方がよい
- ・各ユニットの非常備品について、チェックリストがあるとよい。また皆で集まっての点検の場面があるとよい。
- ・非常備品について、今年で切れるものがあるので見落とさないようにする。
- ・防災用具の点検必要 発動機の点検（しばらく動かしていないため）
- ・倉庫の点検 清掃をしながら、確認・点検を行いたい。
- ・緊急連絡網の方法を再検討して、早く正確に伝えられるようにしていく。

2. リスクマネジメント（事故防止対策の推進）

- ・ヒヤリハットファイルの様式を変更した。どんな内容が出てきたのか集計して皆さんに示すようにする。
- ・天災・人災等有事の際、安全委員会内でも緊急に動けるように体制を考えておく。

3. 自転車

- ・管理ファイルの作成が不十分であり、各ユニットでも対応してもらうようにする。
- ・点検・修理が不十分。（まめにチェックできるとよい）
ボランティアさんの活用
- ・古いもの、乗れないものを処分すること。

4. 公用車

- ・各車の点検を1ヶ月毎に行ったため安全点検がスムーズに出来た。
- ・洗車不十分。特に車内清掃ができていなかった車あり。
- ・使用した人のマナー向上の喚起。特に乗車後のゴミのチェック。
- ・各車にドライブレコーダーを設置してはどうか。
- ・各車の扱い方について、接触等の小さな事故でも必ず報告してもらうよう徹底する。

5. 遊具

- ・定期的にできていた。
- ・情報の共有不足あり。
- ・園庭とのざわホームを分けるフェンスの支えポールが機能していない。

6. 不審者対策

- ・実施する必要がある。(今年度はコロナの影響もあり実施できず)
- ・警察に立ち会ってもらい、アドバイス・指摘等いただく方法も良い。

*** 日常的に委員会メンバーで情報交換をして、園全体の安全・安心について意識を持って役割を果たしていくことが大切。**

『広報委員会』

1 主な活動内容

項目	内容	担当者
広報誌発行	5月、9月、1月の年3回の発行。養護園、養徳園、記事を分担する。作成後、各種関係機関へ発送する。	委員会メンバー全員 (養護園 橋本)
ホームページ	養徳園日記更新 職員紹介	主に各ユニット職員
写真管理	写真フォルダー管理	委員会メンバー
カレンダー制作	次年度の手作りカレンダー制作の企画・作成	委員会メンバー
スケジュールの記入、掲示物張り出し	月のスケジュールを職員室ホワイトボードに記入。掲示の張り出し。	加藤

2 活動記録

第一回 (R2.4.20)

- ・メンバー自己紹介
- ・事業計画の説明
- ・広報誌 68号の記事内容の検討
- ・検討事項：年間の写真の整理について

第二回 (R2.5.17)

- ・広報誌 68号の発送作業(研修室にて)

* 寄付用の振込用紙を同封したら、すでに寄付をしてくださった方から、寄付が届いたか確認の問い合わせがあった。次年度は園長名で一筆添えた方が良い。

第三回 (R2.6.15)

- ・広報誌 69号の企画検討

* コロナ禍で極端に行事が減ってしまったため、記事の内容は「コロナ自粛時の各ユニットの過ごし方や工夫」とする

- ・表紙デザインの検討

第四回（R2.7.15）

- ・広報誌 69 号の原稿分担
- ・写真データのバックアップ作業

第五回（R2.8.21）

- ・広報誌 69 号の第一校正作業
- ・広報誌 69 号の表紙デザインの選定と決定
- ・次年度カレンダー制作のユニット分担の決定

第六回（R2.9.15）

- ・広報誌 69 号の発送作業

第七回（R2.10.15）

- ・広報誌 70 号の企画検討
- ・上半期の反省会

第八回（R2.11.15）

- ・広報誌 70 号の原稿デザインなどの検討

第九回（R2.12.15）

- ・広報誌 70 号の校正作業

第十回（R3.1.17）

- ・広報誌 70 号の発送作業

第十一回（2 月各自）

- ・各自の都合の良い時に写真データのバックアップ作業

第十二回（R3.3.17）

- ・年度末反省会

3 反省、後の課題

① 広報誌オアシス

- ・今年度は毎月委員会の日を設けたので、広報誌発送作業を委員会メンバーだけで行った。しかし、委員会メンバーだけでは負担が大きかったので、次年度から空いている職員に声をかけた方がよい。
- ・今年度は 3 回の広報誌の表紙を季節ごとにレイアウトを変えたが、それは良かったと思う。
- ・原稿のデザインを一部のメンバーに任せきりだった。
- ・顔かくしのスタンプを統一したかどうか。
- ・掲載する内容の期間を一ヶ月ずらした。

② ホームページ、養徳園日記

- ・HP の職員自己紹介は継続した方がよい。
- ・今年度、養徳園日記の件数を職員会議で報告した件について
(肯定)記事の書き込み件数が格段に増えた。投稿の意識が高くなった。ユニットでの生活

で、子どもたちのちょっとした変化に気付けた。年度後半で件数報告を止めると、件数が減ってしまった。

(否定)件数を増やすことばかり考えてしまい、記事の内容がほとんど無い記事が増えた。

- ・同じユニットで同じようなエピソードを描きこんでしまう事があった。
- ・次年度からタイトルにユニット名を書き込んでみたらどうか？「oooo、Nユニット」

③ スケジュールの記入、掲示物張り出し

- ・スケジュール記入とカレンダーの張替えは、加藤副施設長が行ってくださった。廊下の掲示物の修繕等は、広報委員でない職員も率先してくれた。
- ・玄関の寄付者の掲示物のデザインを、子どもたちの描いた絵にしてみた

④ その他

- ・行事の写真の集まりが悪かった。改善項目である。
- ・写真のバックアップは進められた。
- ・日記の印刷はあまり進まなかった。印刷ファイルの収納スペースを確保したい。

『運営改善委員会』

1、主な活動内容

項 目	内 容
スーパービジョンの方法の検討	職員が年間目標から個別の目標を設定し、それをもとに上司及び施設長との面談等を通し自己成長を図る。
援助マニュアルの検討	記録保存の仕方、ユニット費の運用についてなどハード面でのマニュアルの作成を行う。
自己評価～改善計画の策定及び実施	各ユニットでの自己評価を踏まえ改善点の把握及び改善計画についての検討を行う。
子どもの満足度に関するアンケート実施	子どもの満足度アンケートの作成を検討し、定期的にそれを確認していくことで改善課題、対応策の発見につなげていく。

2、反省、今後の課題

- ・ふりかえりシートの活用について、令和 2 年度は新任職員を対象に活用を図ったが現状としては定着していない。スーパーヴィジョン体制の検討及び、職員の目標設定には至らなかったため、次年度の取り組みとしたい。
- ・援助マニュアルの検討については、細部についての見直しとともに本園重点項目「生活の質の向上」においてとりあげ、各項目において職員の関わりが見える事例を盛り込み職員の

共通理解を図っている

- ・各ユニットにおいて第三者評価の自己評価に取り組み、職員それぞれが改善点の把握を行った。

- ・令和元年度の第三者評価において指摘のあった「子どもの満足度を組織的に確認し、養育・支援の向上を図る仕組みの整備」にあたり、子どもへのアンケートを実施し、満足度確認を行った。

令和 2 年度 事業報告（氏家養護園）

1. 運営全般について

昨年度終盤からのコロナの影響で予定していた行事をほとんど行うことができず、予定を大幅に変更し園内での代替行事を行った。非常事態宣言等の影響で子どもたちも自由に外出・外泊できない時期もありストレスを感じる場面もあっただろうに、皆よく我慢しコロナに感染することなく健康で無事に一年を過ごすことができたことはたいへんありがたいことであった。また 4 から 5 月にかけての学校休校時に受験生である中 3 生を中心に園内で勉強会を行うことで、学習意欲が高まり成績がグーンとアップし、見事志望校へ進学できた子どももいた。また私立高校へ野球の特待で進学した子どももあり、今後の活躍が楽しみである。

残念なことに高校生においては、中途退学者も出てしまい、中学 3 年生での他施設からの措置変更による入所の難しさを改めて感じさせられた。

2. 児童の動向

（1）学年別在籍数（措置児童）

令和 2 年 4 月 1 日現在（みやこ家・琴平の家を含む）

	未就学	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	その他	計
男	3	4			2	1	2	1		4	1				1 8
みやこ家											2	1	3		6
女	3	3	2	1		1	2	1		1					1 4
琴平の家											2	1	2		5
計	6	7	2	1	2	2	4	2		5	5	2	5	0	4 3

令和 3 年 4 月 1 日現在（みやこ家・琴平の家を含む）

	未就学	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	その他	計
男	3	2	6			2	1	2	1						1 7
みやこ家											4	1	1		6
女	3		3	1	1			2			1				1 1
琴平の家			1		1							2	1	1	6
計	6	2	10	1	2	2	1	4	1	0	5	3	2	1	4 0

(2) 月別入退所状況

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 数			その他	月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職・自立		
4	男	2 4						4 2
	女	1 9		1				
5	男	2 4						4 2
	女	1 8						
6	男	2 4						4 2
	女	1 8						
7	男	2 4	1					4 4
	女	1 8	1					
8	男	2 5						4 4
	女	1 9						
9	男	2 5						4 3
	女	1 9						
10	男	2 5		1				4 1
	女	1 8			1			
11	男	2 4						4 1
	女	1 7						
12	男	2 4	2	1				4 2
	女	1 7						
1	男	2 5						4 2
	女	1 7						
2	男	2 5						4 2
	女	1 7						
3	男	2 6	2	1		3		3 9
	女	1 7		1				

(3) 委託一時状況

学年・性別	児 相	保護の期間及び理由
小3・男児	中央児相	5/25 ～ 6/26 本児の安全確保
小3・男児	県北児相	9/10 ～ 12/28 母、自宅療養
中1・女児	中央児相	10/26 ～ 10/29 本児の安全確保
中1・女児	中央児相	10/26 ～ 10/29 本児の安全確保
小1・男児	中央児相	11/17 ～ 12/4 本児の安全確保及び養育環境調整
未就学・男児	中央児相	11/17 ～ 12/4 本児の安全確保及び養育環境調整
未就学・女児	中央児相	12/14 ～ 12/22 母、精神的不安定

(4) トワイライト及びショートステイ状況

月	年齢・性別	延日数			
4月	11歳・女兒	3	10月		
5月	9歳・女兒、8歳・女兒	10	11月		
6月	9歳・女兒	2	12月		
7月	9歳・女兒	2	1月		
8月			2月		
9月			3月		
			計		17

(5) 卒業生の進路

幼稚園 ○○○○ → 小学校1年 (在園)
 ○○○○ → 小学部1年年 (在園)
 小学校 ○○○○ → 中学校1年 (在園)
 ○○○○ → 中学校1年 (在園)
 ○○○○ → 中学校1年 (在園)
 ○○○○ → 中学校1年 (在園)
 中学校 ○○○○ → ○○○○高等学校 普通科1年
 (みやこ家へ移動)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 情報科学部 商業システム化1年
 (みやこ家へ移動)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 普通科1年
 (みやこ家へ移動)
 ○○○○ → ○○○○高等学校1年
 (家庭復帰)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 情報科学部 ライフデザイン科1年
 (在園)
 高校生 ○○○○ → ○○○○高等学校 普通科 卒業
 株式会社○○○○ 入社(就職・自立)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 普通科 卒業
 株式会社○○○○ 戸田営業所 入社(就職・自立)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 普通科 卒業
 ○○○○専門学校 ITエンジニア科 入学
 (進学・家庭復帰)
 ○○○○ → ○○○○高等学校 卒業
 (就活・措置延長)

3. 養護の状況

(1) 給食

嗜好調査を行い、子ども達の声聞きながら新しいメニューも取り入れた。

朝食・夕食のグループで作れるものはグループで作り、食べることによって、家庭的な環境で会話を楽しみながら食事が出来、団欒する事が出来る様になった。また余った食材等も次の食事に回したり工夫する事によって残食もかなり減った。子どもたちも卵料理などの簡単な調理は進んで行う様子が多く見られた。今後も食事のマナーなどについて、幼児の内から身につけられるよう支援していきたい。また今後も引き続き、子ども達が楽しく食事が出来る食卓づくりを目標として行きたい。

(2) 健康管理

①健康管理

看護師を配置し、全職員で子どもたちの健康管理に留意し、全体的な健康管理も良好であった。

(のべ通院人数：537人、通院月平均：45人)

新型コロナウイルス感染症の流行が続いており、施設内での発症を防ぐため今年度はマスクや手指消毒の徹底、室内の消毒、面会・外出・外泊の禁止など、様々な感染対策を徹底してきた。

その効果もあり、年間を通して施設内における発熱を伴う感染症の流行はみられなかった。

今後も子どもたちが、健康で安全に生活できるように、新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症に対し、その疾患の流行の状況に応じた感染症対策を実施していく必要がある。また、発達の課題を持った児童の入所も増えてきており、国際医療福祉大学病院や塩谷病院のリハビリテーションセンターに通院し、STやOTを実施している児童も増えている。個々の課題に合わせた学校や生活面での丁寧なサポートが必要とされるため、今後も医療機関や学校と連携しながら支援していく必要がある。

②通院状況 (のべ通院人数537人)

内科・小児科 (中津川クリニック・おのこどもクリニック・済生会病院・きぬの里クリニックなど)
・・・223人

歯科 (福澤歯科クリニック)・・・86人

皮膚科 (檜山医院)・・・52人

耳鼻科 (中川耳鼻科)・・・31人

眼科 (早坂眼科・自治医大病院など)・・・58人

整形外科 (半田クリニック・倉持整形外科)・・・11人

泌尿器科 (自治医大病院)・・・1人

リハビリテーションセンター (塩谷病院・国福大病院)・・・48人

小児精神科 (国福リハセン)・・・24人

③各種予防接種

四種混合・・・1人 二種混合・・・4人 MR ワクチン・・・3人

インフルエンザ・・・71人 日本脳炎・・・9人

B型肝炎ワクチン・・・1人

(3) 年間研修実績

研修

○栃養協部会 ・施設長 大谷 ・CW 高橋 高島 ・FSW 斎藤千
 ・調理 雫 ・書記 鈴木 ・心理 竹村
 ・看護師 山形 ・里親 橋本 ・個別対応 後藤華

○県養協 ・新任職員 鈴木 稲村
 ・若手職員 後藤華 後藤紀 岡田 手塚
 ・中堅職員 竹村 小暮
 ・上級職員 永井 館野 三ツ俣
 ・基幹的職員
 ・県外派遣

○外部研修 コロナの影響で中止若しくは不参加

○その他 被虐待児のケア、性的な問題、発達障害、学習指導に関する研修

令和2年度 外部研修

日付	研修名及び内容（講師）	場 所	参加者
6/18	栃養協新任職員研修① 社会的養護の基本的な理解と養育者の心構え（福田雅章氏）措置制度及び児童養護の現状と課題（藤本早氏）	とちぎ青少年センター	鈴木 稲村
7/7	アフターケア関係者研修会及び職業指導員専門研修会 発達障害に関する制度とサービス利用（発達障害者支援センター・小貫康広氏）発達障害のある中高生の理解と周囲のかかわり方（作新学院大学講師・高浜浩二氏）	とちぎ青少年センター	亀山 竹石
7/8	栃養協中堅職員研修① リーダーシップと組織のマネジメントについて・新任、若手職員の指導、教育、スキルの向上（ワークエントリー宇都宮事業所長・野崎千晶氏）社会的養護（福田雅章氏）	とちぎ青少年センター	小暮 竹村
7/21	栃養協新任職員研修② 社会人としてのマナーとチームに貢献する仕事の進め方（ワークエントリーとちぎ事業部所長・野崎千晶氏）	教育会館	鈴木 稲村
8/3	栃養協若手職員研修① ペアレントトレーニングで適切な養育技術（秋葉美智子氏）	とちぎ青少年センター	後藤華 中西
8/24	栃養協若手職員研修② ペアレントトレーニングの手法を活用した児童との関わり（秋葉美智子氏）アドミッションケア・インケア（福田雅章氏）	とちぎ青少年センター	後藤華 中西
9/11	栃養協上級職員研修②	とちぎ青少年	永井

	児童福祉を取り巻く現状（子ども政策課主幹・湯沢典子氏）施設の管理・運営（藤本早氏）社会的養護における人材育成を取り巻く現状と改善点（作新大学坪井真氏）	センター	館野 三ツ俣
9/23	栃養協若手職員研修③ 発達支援及び問題行動の理解と援助方法 子どもの権利を守るための取組み	とちぎ青少年 センター	後藤華 中西
9/29	第1回思春期辞令研究会① 思春期相談事例の検討及びスーパーバイズ（湘南病院院長精神科医・大滝紀宏氏）	栃木精神保健 センター	上野 大谷
10/8	栃養協新任職員研修③ 子どもの発達心理他（作新学院・愈ケイ蘭氏）児童養護の歴史とこれからの社会的養護（福田雅章氏）	とちぎ青少年 センター	鈴木 稲村
10/20	栃養協中堅職員研修② 新任職員を支えるための指導・教育の方法 権利擁護 子ども間の暴力防止 レジデンシャルマップによる子ども間の関係性の把握（那須子どもの家施設長・田中浩之氏）	とちぎ青少年 センター	小暮 竹村
10/29	性的虐待等相談支援事業 性暴力被害開示の初期対応（愛育研究所客室研究員・山本恒雄氏）	国立きぬ川学 院	大根田
11/4	思春期事例研究会② 家庭環境が不安定な不登校 18歳男子（初台クリニック院長・中康氏）	栃木精神保健 センター	大谷の 上野
11/6	栃養協若手職員研修④ 障害者福祉の仕組みについて（桜花施設長・若倉健氏）	とちぎ青少年 センター	後藤華 中西
11/6	被措置児童の権利擁護・虐待根絶のために（山梨県立大・山田勝美氏） 長期派遣研修の報告	とちぎ青少年 センター	長谷川 稲村
11/12	アフターケア関係者研修会及び職員指導員等専門研修会 チームアプローチと支援方法について（協和大学・石本真紀氏）	とちぎ青少年 センター	亀山 福田亘
11/15	感染症対策事前指導 入所児の感染症対策について（看護協会・野沢氏）（TRICK・吉村医師）（上都賀総合病院・野沢薬剤師）	養徳園	山形
11/27	栃養協新任職員研修④ トラウマを抱える児童に対する支援について（国福大・中山和幸氏）	とちぎ青少年 センター	鈴木 稲村
12/10	栃養協上級職員研修③ 職員メンタルヘルスとその対応について（精神保健センター・天野託氏）アセスメント・カンファレンス・チームアプローチ（那須子どもの家・田中浩之氏）	とちぎ青少年 センター	永井 館野 三ツ俣
2/26	施設処遇援助事業 施設内性問題対策強化研修（一之宮学園福施設長・山口修平氏）	養護園（オン ライン）	山形 小暮

栃養協部会は記載していません

○法人研修

- ・権利擁護と家庭的養護：福田総合施設長
- ・社会福祉施設の運営：大谷園長 豊岡事務長
- ・先輩職員との座談会：加藤 森 酒井 齋藤
- ・中堅若手が語る児童養護：後藤華 小暮

(4) 行事

日付	行事名	行き先及び内容	参加児童
5/5	ふれあい祭り	コロナの為中止	
5/5	お楽しみ会	園内でじゃんけんシールラリー、ビンゴ大会等	子ども 42名 大人 36名
7/7	七夕	園内	全児童
	小学生キャンプ	コロナの為中止	
	プール	コロナの為中止	
	幼児キャンプ	コロナの為中止	
	高校生キャンプ	コロナの為中止	
	中学生キャンプ	コロナの為中止	
8/5	お楽しみ会	園内で綱引き、ヨーヨー釣り、宝探し、花火等	全児童
8/7	かき氷作り	食堂	
8/16	パフェ作り	食堂	
9/13	パン作り	食堂	全児童
10/1	十五夜	園内	全児童
10/30	ハロウィン	園内	全児童
10/11	里親交流会	鬼怒グリーンパーク	子ども 27名 大人 13名
	社会体験	コロナの為中止	
11/7	七五三	御嶽神社	幼1名、小3名 大人4名
12/25	クリスマス会	園内	全児童、全職員
12/28	餅つき	園内	全児童、全職員
12/28	大掃除	園内	全児童、全職員
12/29	テーブルマナー	食堂	子ども 39名

	グランドホテル ランチバイキング		大人 21名
1/1	初詣	コロナの為中止	
1/1	DVD 観賞会	園内	在園児童
2/2	節分	園内	全児童
	文化祭	コロナの為中止	
	スキー・スノボ	コロナの為中止	
3/3	桃の節句	園内	全児童
3/1 4	卒業を祝う会	食堂	全児童、全職員
	福祉まつり	コロナの為中止	
	招待行事	コロナの為中止	

4. 施設の社会科

(1) 施設実習

国際看護介護保育専門学校	R2	6/28 ~ 7/ 8	2名
国学院大学栃木短期大学	R2	8/17 ~ 8/27	2名
佐野日本大学短期大学	R2	9/ 7 ~ 9/17	2名
国際看護介護保育専門学校	R2	9/28 ~ 10/ 8	2名
白鷗大学	R2	10/ 9 ~ 10/19	2名
宇都宮共和大学	R2	12/12 ~ 12/22	2名
白鷗大学	R3	2/15 ~ 2/25	2名
白鷗大学	R3	2/26 ~ 3/ 8	2名
足利短期大学	R3	3 /9 ~ 3/19	2名

合 計

18名

※今年度、県外の実習生受け入れはコロナウイルスの為、受け入れ自粛。

(2) 里親養育体験 コロナの為、自粛

ふれあい里親 4月4日 ○○○○

(3) ボランティアの受け入れ

ケイタリング・・・宇都宮グランドホテル	(6/16)
奉仕作業・・・・・・さくら市更生保護女性会	(11/24)
余暇支援・・・・・・宇都宮大学学生ボランティア	(12/20)

定期的な寄付・・・マルハン氏家店／那須塩原店（お菓子）
 くるまやラーメン：齋藤保夫（米、餃子、水）
 小倉商店（食材）
 松崎屋（食材）
 チュチュアンナ1%クラブ（靴下）
 POST・DE・BLE（パン）
 野沢秀子（フルーツ、お菓子）

（４）施設見学
 コロナの為、自粛

５．各グループ事業報告

<おおぞらグループ>

（１）子どもの構成

- | | | |
|-----------|-------|-------------|
| ① 中学３年男児 | 氏家中学校 | |
| ② 中学３年男児 | 氏家中学校 | |
| ③ 小学６年男児 | 南小学校 | |
| ④ 小学５年男児 | 南小学校 | |
| ⑤ 小学４年男児 | 南小学校 | |
| ⑥ 小学１年男児 | 南小学校 | |
| ⑦ 小学１年男児 | 南小学校 | |
| ⑧ 幼稚園年長男児 | 氏家幼稚園 | |
| ⑨ 幼稚園年長男児 | 氏家幼稚園 | |
| ⑩ 幼稚園年中男児 | 氏家幼稚園 | |
| ⑪ 小学１年男児 | 南小学校 | → 令和２年１２月入所 |
| ⑫ 幼稚園年中男児 | 氏家幼稚園 | → 令和２年１２月入所 |

（２）職員構成

小野 明美	（保育士・グループリーダー）	
齋藤 千尋	（保育士）	
高橋 亮人	（保育士）	
佐藤 晴美	（指導員）	→ 令和２年８月より琴平の家へ異動
後藤 紀子	（保育士）	
手塚 真弓	（指導員）	

（３）通学状況

氏家中学校	２名（自転車）
南小学校	６名（徒歩）
氏家幼稚園	４名（幼稚園バス）

(4) グループ行事

3月 食事会

(5) 定期通院状況

・宇都宮済生会病院・小児科	1名	1ヶ月	1回
・国際医療福祉リハビリテーションセンターなす療育園	1名	2ヶ月	1回（服薬）
・国際医療福祉大学塩谷病院（リハビリ）	1名	1ヶ月	1回
・国際医療福祉大学病院（リハビリ）	1名	1ヶ月	1回
・おのこどもクリニック	2名	1ヶ月	1回（服薬）
・中川耳鼻科	1名	1ヶ月	1回（服薬）
・くりばやしこどもクリニック	1名	1ヶ月	1回

(6) 生活状況

- ・活発な子が多く賑やかだった。
- ・全員順調に、登園・登校が出来た。
- ・小学生の学習する習慣は身につけている。中学生の学習については、受験生ということもあり、通塾をして学習に取り組み、希望校へ合格ができた。
- ・年上の子が、幼児を可愛がり面倒を見る姿も見られたが、幼児の騒がしさに我慢できず、年上の子が幼児に対し、強く当たってしまうことも見られた。
- ・整理整頓が苦手な子が多く、部屋が散らかることも多いが、少しずつ自分なりに片付けようとする姿が見られるようになってきた。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、元気に過ごす。
- ・挨拶、お礼が言えるようにする。
- ・思いやりの心が養える様支援する。
- ・自分の持ち物の整理整頓ができ、物を大切にする気持ちを養えるよう支援する。
- ・中学生の家庭学習の習慣化を図る。
- ・様々な社会体験を通して、自分にできることを見出すとともに、自己肯定感が持てるよう支援していく。

<だいちグループ>

(1) 子どもの構成 定員...男子8名（小規模グループケア対象）

① 高校1年生男児 ○○○○高等学校

※令和2年8月16日（日）地域小規模児童養護施設みやこ家へ異動

② 中学3年生男児 氏家中学校

※令和3年3月20日（土）中学校卒業、高校進学に伴い家庭復帰

- ③ 中学3年生男児 氏家中学校
※令和3年3月28日（日）地域小規模児童養護施設みやこ家へ異動
- ④ 中学1年生男児 氏家中学校
- ⑤ 小学6年生男児 南小学校 ※自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍。
- ⑥ 小学4年生男児 南小学校
- ⑦ 小学1年生男児 南小学校
- ⑧ 小学1年生男児 南小学校
- ⑨ 小学1年生男児 南小学校 ※令和3年3月16日（火）

（2）職員構成

三ツ俣 悟 (保育士・グループリーダー)
 桑原 亮太 (指導員)
 岡田 和枝 (指導員) ※令和2年8月31日付 自己都合により退職
 亀山 勝伸 (職業指導訓練員)
 竹村 友貴 (心理士)

（3）通学状況

〇〇〇〇高等学校 1名（自転車、電車、バス通学）
 氏家中学校 3名（自転車通学・片道5km）
 南小学校 4名（徒歩通学 ※通学指導として職員1名付き添い）

（4）ユニット行事報告

3月 グループお楽しみ会（食事会）

（5）定期通院状況

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター	3名	月1回・服薬
		月1回・服薬
中川耳鼻科	1名	月1回・服薬
おの子どもクリニック	1名	月1回・服薬
氏家皮膚科	3名	月1回・塗布薬
		月1回・服薬、塗布薬
		月1回・塗薬

（6）生活状況

- ・年度当初から3カ月程は、高校1年男児の問題行動によりグループ内でのトラブルが増えた。その都度、職員も対応していたが、日を迫うごとに他児への影響も大きくなり、グループ外の職員の応援も必要となってきた。その中で、他児に対する暴言暴力、また職員への威圧的な言動が続けて起き、高校1年男児は6月に一時保護となる。その後、8月に本園・地域小規模みやこ家へ異動となる。

- ・日課や規則に対して、各学年や年齢に合わせて支援することができた。子どもだけではなく、職員も一緒に屋外で過ごすも食事の時間、入浴の順番、起床就寝の時間など、子どもたち自身は考えながら生活を送っている様子が見られた。しかし、グループの職員間での情報共有や支援方法などについて、リーダーから話し合う機会を作って行くことが必要であった。
- ・高校1年男児の問題行動により中学3年男児が左頬打撲の怪我を負ってしまった。間違えれば更に大きな怪我となっていたことも考えられ、職員は様々な状況を想定、予測しながら業務にあたっていくことが必要となる。定期通院をしている子どもはいたが、健康に留意して過ごすことができ、病気をすることなく無事に学校生活を送ることができた。
- ・受験生の中学3年男児2名は、1名がスポーツ特待生として私立高校へ進学、1名が県立の志望校は不合格であったが、希望する私立高校へ進学することができた。

(7) 今後の課題

- ・子ども個々が居心地の良さを感じて生活ができるように支援していく。
- ・日々の生活を通して、子どもたちが思いやりの心を育んでいけるように関わる。
- ・安心感のある場所で大切にされる経験を子どもたちに提供していけるよう、職員間で細かく情報を共有して支援をしていく。
- ・健康に留意して、心身ともに健やかに成長をしていけるように見守っていく。
- ・個々に合った基本的な生活習慣を身に付けていけるよう支援する。
- ・学習に対して、意欲的に取り組み習慣化に繋がるように個々に合わせた学習支援をしていく。その中で進路決定に向けて、子どもと話をしながら目標を設定して支援していく。
- ・自立を視野に入れ、部活動や様々な活動を通して社会性を養って行けるように支援していく。

<ひだまりグループ>

(1) 子どもの構成

- | | | |
|---|---------|-----------------------|
| ① | 中学3年女児 | 氏家中学校 |
| ② | 小学1年女児 | 南小学校 |
| ③ | 小学1年女児 | 南小学校 |
| ④ | 幼稚園年中女児 | 氏家幼稚園 |
| ⑤ | 4歳女児 | 在園 |
| ⑥ | 4歳女児 | 在園 |
| ⑦ | 4歳女児 | 委託一時保護 R2.12.14~12.22 |

(2) 職員構成

- | | | |
|-----|----|-------------------------|
| 酒井 | 春子 | (主任保育士、ユニットリーダー) |
| 上野 | 奈穂 | (指導員、グループリーダー) |
| 中西 | 由香 | (指導員) |
| 福田 | 恵理 | (保育士) |
| 片岡 | 弘江 | (非常勤保育士補助) |
| 長谷川 | 友美 | (非常勤保育士補助) 令和2年7月1日より勤務 |

(3) 通学状況

氏家中学校 1名 (自転車)
南小学校 2名 (徒歩)
氏家幼稚園 1名 (通園バス)

(4) グループ行事

2月 グループ食事会

(5) 定期通院状況

おのこどもクリニック	3名	1カ月に1回 (服薬)
国際医療福祉大学塩谷病院	2名	1カ月に2回 (リハビリ)
	1名	1か月に1回 (リハビリ)
国際医療福祉リハビリテーションセンターなす療育園 (小児科)	1名	2ヵ月に1回 (服薬)
早坂眼科	2名	3ヵ月に1回
はやさか眼科	1名	3ヵ月に1回
桧山医院	1名	3ヵ月に1回 (服薬)
	1名	1カ月に1回 (服薬)
獨協大学病院	1名	1年に1回

(6) 生活状況

- ・前年度と比較し、定員が12名から6名に減ったことで、それぞれが落ち着いた雰囲気の中で、生活することができた。
- ・持病のある子どもは服薬をしているが、とても健康的で元気に生活出来ていた。
- ・小学生は学校の宿題を終わらせる週刊が身につき、中学生も、主に新型コロナウイルスによる休業期間中に家庭学習に取り組むことが出来た。
- ・全員ほとんど休み、遅刻等なく、登校することが出来た。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、毎日元気に過ごす。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、個々の生活スタイルを重視し、子どもそれぞれに合った支援を全員で考え、チームで支援していく。
- ・出来る限り子どもそれぞれの要求に応えてあげる。
- ・子どもと大人の間で信頼感を形成し、お互いに尊重し合えるような関係を結ぶ。
- ・色々な経験を通して、出来るということを実感させ、自信に繋がるよう支援する。

<そよかぜグループ>

(1) 子どもの構成

①小学1年女兒	南小学校	令和 2年 4月 1日	ひだまりより移動
②小学2年女兒	南小学校	令和 2年 4月 1日	ひだまりより移動
③小学2年女兒	南小学校	令和 2年 4月 1日	ひだまりより移動
④小学3年女兒	南小学校	令和 1年 5月31日	
⑤小学6年女兒	南小学校	平成31年 4月 1日	
⑥小学6年女兒	南小学校	平成31年 4月 1日	

(2) 職員構成

永井 健二	(指導員・グループリーダー)
後藤 華織	(指導員)
大根田 枝里子	(保育士)
小暮 千晴	(保育士)
橋本 繁明	(里親支援専門相談員)

(3) 通学状況

南小学校	6名(徒歩)
------	--------

(4) ユニット行事

8月	グループ調理
10月	グループ調理
1月	グループ調理
3月	ユニットお楽しみ会

(5) 定期通院

おのこどもクリニック	1名	月1回
自治医大病院・斜視外来	2名	1回/2カ月

(6) 児童相談所関係

- ・小3女兒 月1回フォローアップ

(7) 生活状況

- ・今年度は、小学生の女兒のみのグループ構成になり、比較的まとまりやすく、多少の意見の相違はあったものの、落ち着いた生活を送ることが出来た。
- ・日常生活の中で、職員側で決めていくのではなく子どもたちの意見を取り入れ、トラブルにならないようであれば、子どもたち自身で組み立てることを大事にした。
- ・コロナ禍で外出や行事等がなかなかできない状況で、グループ内でのお菓子作りや調理などを取り入れ、子ども達が楽しく生活を送れるような工夫を行った。

(8) 今後の課題

- ・温かみと笑顔があり、他者を思いやる気持ちを持てるよう支援していく。
- ・生活の中で、もっと一緒に取り組めるところを増やしながら受け身ではなく、自分たちが生活を組み立てる意識を育んでいきたい。
- ・できたことは十分に認めてあげ、自分に自信を持てるような関わりを意識していきたい。また、初めてのことや出来ないことにも積極的に取り組みながら、子ども達が達成感を感じられるような生活を目指したい。
- ・コロナ禍においても、子ども達が楽しんで生活が送れるように、一緒に考え楽しみを持って生活が送れるようにする。

地域小規模児童養護施設＜みやこ家＞

(1) 子どもの構成（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

①〇〇〇〇〇	〇〇高校3年	男児	令和3年3月17日、卒業、家庭復帰のため措置解除
②〇〇〇〇〇	〇〇高校3年	男児	令和3年3月19日、卒業、就職自立のため措置解除
③〇〇〇〇〇	〇〇高校3年	男児	令和3年3月15日、卒業、家庭復帰のため措置解除
④〇〇〇〇〇	〇〇高校2年	男児	在園
⑤〇〇〇〇〇	〇〇高校1年	男児	在園
⑥〇〇〇〇〇	〇〇高校1年	男児	令和2年10月5日、進路変更のため措置解除
⑦〇〇〇〇〇	〇〇高校1年	男児	令和2年8月、本園からみやこ家へ引越し。 令和2年12月、家庭復帰のため措置解除

(2) 職員構成

舘野	義博	(指導員・リーダー)
松崎	剛史	(指導員)
福田	亘	(指導員)
長内	紀代子	(非常勤)

(3) 行事報告（参加児童）

令和2年	5月5日	お楽しみ会	(本園)	全員
	12月25日	クリスマス会	(本園)	全員
令和3年	3月14日	卒業を祝う会	(本園)	全員

(4) 今年度の振り返り

- ・日常生活
- ・3月末、児童自立支援施設から1名、県北の他児童養護施設より2名の入所があり新年度がスタートした。
- ・4月上旬より緊急事態宣言が出され高校は一斉休校となり家の中で過ごす時間が増えた。各々、学校からの課題に取り組んだりし時間をすごし落ち着いて生活できていた。
- ・登校再開後、〇〇高1年男子は学校での生活態度により再三指導を受け、停学処分を受ける。伴い生活も乱れたことにより、高3男子もそれに引っ張られ生活が乱れていくことが顕著になった。

- ・高3男子2名は学校での友人とのトラブルも重なりがちになった。
- ・8月に本園より〇〇高校1年男子が引越しとなり住み始めたことでさらに生活の乱れの傾向は大きくなった。
- ・コロナ禍ということもあり登校再開後も子どもたちに外出や生活に制限をかけることが多くなったことで、子ども、職員ともストレスを感じることも多くあった。
- ・〇〇高校1年男子は3回目の謹慎で進路変更を決め母宅へ家庭復帰となった。
- ・〇〇高校1年男子は登校への意欲が上がり退学し、父宅へ家庭復帰となった。
- ・〇〇高3年男子は就職内定をもらった後は登校していたが、3学期に校内で教員への反抗言動により謹慎処分となってしまう。課題を行い卒業することができた。しかしこの謹慎が響き自動車教習所をやめることになり運転免許を取得できずに退所となった。
- ・〇〇高3年男子は、部活での態度や登校状況もよかったことから早々に就職を決めることが出来、運転免許も取得ができた。学校帰りに友人と会うことが多く、感染対策のための早めの帰園を再三話すも帰園時間が遅くなることが多くなり友人らのトラブルに巻き込まれることもあった。
- ・〇〇高3年男子は進路について悩んでいたが卒業後の家庭復帰が決まったことにより進路への取り組み、考え方に前向きさがみえ進学を決めることが出来た。
- ・夏休み以降、謹慎で在園する子、意欲が上がり欠席する児童、つられて欠席をしてしまう児童がおり日中も落ち着かない時間があった。頑張って登校している他児から反感を買うこともあった。
- ・謹慎などもあったが高3男子3名は無事卒業をした。
- ・一年を通して、外出制限など我慢をしてもらう年になった。おおきな病気、怪我もなく過ごすことが出来た。

(5) 健康面

- ・コロナ禍ということもあり外出制限をかけ学校以外の外出は極力控えてもらうようにした。帰宅後のうがい手洗い、マスク着用の声をかけ続ける。大きな病気、けがをすることなく一年を過ごすことが出来た。
- ・新規入所の兄弟は以前いた施設での予防接種の未接種が多かったため、かかりつけ医と相談し積極的に接種を行った。
- ・〇〇高3男子：ADHD傾向で国際医療福祉大リハセンに1～2か月に1度の定期通院をしている。一昨年より服薬はしていないが経過観察ということで職員のみ通院していた。学校生活の落ち着きのなさは服薬を止めたからではないか、との見解を学校側は示す。年度末の謹慎時には通院が謹慎解除要件となったため、本人とも話し合い服薬はせずカウンセリングという形で年度末に通院する。卒業後の通院は本人にまかせていくこととなる。
- ・〇〇高1年男子は、小学時よりADHD様行動により服薬、通院をしていた。高校入学後は、減薬していき服薬を止めるようになった。生活の中では話が聞けないなどの様子は見られなかったが、学校で自分の意にそぐわないことがあったときに反抗してしまい謹慎を受けてしまう。学校側からは服薬再開をするよう本人に話すも、本人の服薬への拒否があまりにも強くこちらも本人の意思に任せることにした。
- ・〇〇高1年男子は、てんかんの疑いとの診断を中学時に受けていたが、服薬はせず過ごす。体力が少し低い様子は見受けられたが大きな病気をすることなくすごせた。過剰歯の矯正の許可（医療保

険適用外)を見相・県に打診し、治療が開始できることとなった。年度末より矯正歯科への通院が始まった。卒業までにはほぼ終わる見通し。

- ・全般に風邪症状、腹痛症状などの通院もあったがマスク、手洗いの励行もあり例年より少なかった。

(6) 学校・進路

- ・〇〇3年男子は母らとの話し合いにより進学とした。学費や通学の便を考え宇都宮の県央産業技術専門学校への進学が決まった。
- ・〇〇高3年男子は、食品関係の仕事に就きたいとの希望があり学校とも相談した。埼玉県株式会社〇〇〇〇に就職することができた。寮もついておりそこに住むこととなる。後期になり学校での問題行動が担任より報告を受けることがあった。年度末に謹慎処分を受ける。母からも話してもらい謹慎解除まで頑張ることができ卒業できた。
- ・〇〇高3年男子は、かねてより希望していた〇〇〇〇株式会社の求人が学校にきていたので就職試験を受け、採用となった。卒園後は家庭復帰とし自宅から通うこととなった。しかし後期になり、友人らが鳶職や解体屋の仕事をするようになってかそういう仕事をしたい、と言い出す。家族からも説得をしてもらい、4月からはスバルにて仕事を開始した。
- ・〇〇高男子は進路変更のため退学をした。乳児院から児童養護施設への入所児だったが、年齢も高くなく、自立援助ホームなどへの措置変更は妥当ではないとの判断により児童相談所CWが家庭調整をおこなう。その結果、家庭復帰となった。
- ・〇〇高1年男子は、学校への意欲が低下し欠席が続く。登校しても授業へ取り組みなかった。母に購入してもらったスマホ端末を使い4年ぶりに父と連絡が取れるようになった。本児が父との生活を望み、父からも本人へ一緒に生活することを受け入れることを伝えた。学校への意欲はさらに低下。退学をして働くという気持ちになる。退学し父宅へ家庭復帰となった。家庭復帰後、就職はすぐにはしていなかったようだったが年度末に仕事に行きだしたとの連絡を受ける。

(7) 家族との交流

- ・各自、連絡を取り合っていた。生活での変化などがあった際には職員からも随時連絡し状況を伝えた。高校3年生が3人いたため、進路に向けての話し合いを保護者と共におこなった。夏以降は外泊の許可もあり、長期休みに外泊に行くようになった。
- ・ある兄弟の父は首都圏在住のため、面会等をお断りした。〇〇高2年男子の進路検討に向け、年度末よりリモートでの面会、見相においての面会および話し合いを行った。父からは考えが甘い等の指摘を受けるも、彼(〇〇高2年男子)なりに考え、措置延長で養護園に住まわせてもらいながら進みたい学校への進学を望んでいる事を彼の口から伝えた。父からは、支援は難しいが承諾をするとの言葉があった。

(8) 次年度に向けて

○「家庭的生活の充実による関係形成・自主性の促進」

- ・高校生とはいえ、まだまだ職員に依存している場面が多くみられる。小規模児童養護施設という特性を活かし、児童とのより深い関係形成を行い支援につなげる。また日々の生活を通して高校卒業後に自立して生活していくことを意識できるよう、職員側も意図的に関わりを持って行きたい。

○「リービングケアの充実」

- ・3年生の卒園を迎えた時期での支援に重点が置かれがちであり、十分に自立に向けての情報提供や準備が出来ていない部分があるので、学年関係なく年度を通しての支援を展開していきたい。
- ・具体的な支援としては、調理や洗濯等の家事全般を職員がやるにしても、見せ説明することで自立後のイメージを立てられるようにしていきたい。また一人暮らしに際しての手続きや準備(金銭的な物)、生活必需品などをまとめたマニュアルを作成し、子どもたちと一緒に考えられる機会を設ける。
- ・アフターケアにおいては、施設長、自立支援専門相談員と連携を取り、共にケアにあたる。

<琴平の家>

(1) 子どもの構成

- ①高校3年生 女子 ○○○○高等学校進路変更(9月9日自立援助ホームに措置変更)
- ②高校3年生 女子 ○○○○高等学校→卒業
- ③高校2年生 女子 ○○○○高等学校
- ④高校1年生 女子 ○○○○高等学校
- ⑤高校1年生 女子 ○○○○高等学校
- ⑥小学3年生 女子 南小学校(7月30日入所)
- ⑦小学1年生 男子 南小学校(7月30日入所)

(2) 職員構成

- 大谷 典子 (保育士・リーダー)
- 竹石 朋浩 (指導員)
- 佐藤 晴美 (指導員)(8月1日本園から移動してくる)
- 鈴木 節子 (非常勤保育士)

(3) 通学状況

- 高校生・・・定期券を使い、JR・路線バスの公共交通機関を利用して通学している。
さくら清修は徒歩で通学。
- 小学生・・・送迎にて登下校。

(4) 行事報告

- R2年 5月5日 お楽しみ会(本園行事に参加)
- R2年 6月16日 グランドホテルシェフ来園にて夕食作り(本園行事参加)
- R2年 8月5日 お楽しみ会(本園行事に参加)
- R2年 12月19日 お食事会(本園行事に参加)
- R2年 12月25日 クリスマス会(本園行事参加)
- R3年 3月14日 卒業を祝う会(本園行事参加)

*定期、高校生を主に対象としたユースアフター主催の自立支援プログラムに参加。
(コロナの影響で中止が多かった。)

＊子どもの誕生会実施（希望に応じてのメニューを作りお祝い）

（５）定期通院状況

- ・小１男の子 栃木県リハビリテーションセンターに通院 ２ヶ月に一回
反応性愛着障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動症疑い
エビリファイ、インチュニブ服用

（６）生活状況

- ・４月に本園から２名移動してきて５名でのスタートとなった。
- ・３年生１名は登校状況が思わしくなく、起床の声掛け、学校への意欲喚起などを行ったが９月には高校を辞め自立援助ホームへ措置変更となった。
- ・もう１名の３年生は就職先が決まらず、就労支援で措置延長となる。
- ・年度途中から小学生が入所となり、今までの高校生だけではなく。うるさい等不満もあったが遊んでいる場面も見られました。
- ・バイトは高校生４名行うが、２名は辞めず続け２名は長続きせず辞めてしまう。

（７）今後の課題

小学生・・・基本的生活習慣を身につけて、家庭学習を定着させる。

思いやる心を育てる。

高校生・・・安定した学校生活の充実。

目標を持ち達成する経験を体験させる。

自立に向けての情報提供、社会生活を営む力を培う。

人として成長し続けていかなくてはならないという自覚を持つ。

互いに学び合い、成長し合う関係を作る。

（８）令和３年度の目標

- ・家庭的な環境での支援を実施しながら、子どもたちの家として安心した当たり前の生活が営んでいけるようにしていきたい。
- ・小学生・・・甘えが沢山出せるようにしていきたい。
- ・高校生・・・高校卒業、進級をめざし高校生活への充実を図る。
高校生としての自覚を持つ。
家事を行うことにより生活スキルの向上を目指す。
子どもと職員との共有時間を沢山持てるようにする。
アルバイトを行い社会性を身に付ける。

８．各支援グループ反省

①余暇支援グループ

令和２年４月２１日（火）参加者：亀山、雫、手塚、中西、高島、齋藤千

【実施内容】

- ・令和2年度 行事担当割り振り
- ・コロナウイルスの影響により、5/5に予定していたふれあい祭りは中止となる。
- ・園長に予算を確認後、職員全体に周知できるようにしていく。

令和2年10月21日（水）参加者：亀山、雫、大根田、中西、手塚

【実施内容】

- ・今年度実施した行事の支出額とおおよその残金について
- ・行事について
グランドホテルで食事会が出来ないか。
 - ・日 時：12月19日 or 20日
 - ・時 間：昼食前後
 - ・移動手段：バス、車
 - ・料 理：コース料理
 - ・出し物：ビンゴ（景品あり ジュースでどうか）
クイズ（画用紙、マジック、判定する人）

令和2年12月15日（火）参加者：亀山、手塚、大根田、中西、雫、齋藤千

【実施内容】

- ・12/19 グランドホテル食事会について
料理代 4,500円 飲み物代 1,000円 1人5,500円
職員 20名 子ども 41名 合計61名
9:00 グランドホテルの方来園
11:00 食事会開始
- ・宇大リモート物づくりについて
- ・初詣について
昼食はどうするか。各グループ予算1人7000円で。
初詣に行けない場合の子ども達の過ごし方。
→研修室でDVD観賞

令和3年2月16日（火）参加者：亀山、大根田、中西、手塚、齋藤千

- ・園長より、今年度はコロナの影響もあり、外出等出来なかったので子ども達に何か欲しい物を1つ買ってあげたいとのことで今年度中の購入を考えている。年度末だとバタバタしてしまうので3月の半ば頃を予定している。
幼児 3000円程度
小学校低学年 5000円程度
小学校高学年 8000円程度
中学生 10000円以内
高校生 15000円以内 ※新学年で考える。（年長→小1）

<今年度の反省>

- ・新型コロナウイルスの影響により行事がほぼ中止となってしまった為、例年とは違った行事を行なった。
(お楽しみ会、ハロウィンパーティー等)
- ・テーブルマナーとしてグランドホテルの方々に足を運んで頂き、本園の食堂にて食事会を開いた。いつもとは違い、ナイフやフォークを使って食事をし、子どもたちにとってもとても良い経験になったのではないかな。

②子ども会議グループ

令和2年4月21日(火) 参加者：三ツ俣、福田(恵)、佐藤、小林、小暮

【実施内容】

- ・子ども会議の目的や意義、進行の仕方について確認を行う。
- ・今年の子ども会議(子どもを含めた)で話し合う内容のテーマについての確認を行う。
①小学生については子どもたちから意見がでたテーマ、②中学生についてはテーマを決めずに自由に話し合ってもらふこととなる。

令和2年10月21日(水) 参加者：福田(恵)、小林、小暮

【実施内容】

- ・次回の子ども会議(子どもを含めた)の日程とテーマについての確認。
- ・みんなの声について月末に中身を確認することになっていたが、確認不足が多かった。その為しっかりと確認をし、確認をした職員は子ども会議ファイルにある紙に印を押すこととする。
- ・子どもの意見を聞いた後、子ども会議支援グループの職員だけが把握しているのでは良くない為、他の職員にも周知できるようファイルを作り、職員が見られる様にする。
- ・子ども会議の進め方について、子どもたちに遊ぶ時間を割いて集まってもらっている為、グダグダで無駄な時間になってしまうのは良くない。子ども会議がどうしても有効な時間になるのかを考えていく。

令和2年12月15日(火) 参加者：三ツ俣、福田(恵)、小林、小暮

【実施内容】

- ・今後も子ども会議の内容についての確認。①子ども用PCの使い方について②ミーティングの使い方について確認を行って欲しいとの声があった為、確認を行っていく。
- ・コロナウイルスが流行している中で、子どもが配膳の手伝いをしても良いのかと言う疑問の声が上がってきている。子どもの中には配膳を手伝いたい子もいるが、グループによっては配膳の手伝いはさせていないところもある為、「ずるい」となってしまうのではないかな。確認を行う。

令和3年2月16日(火) 参加者：福田(恵)、小林、小暮

【実施内容】

- ・子ども会議(子どもを含めた)の場で子どもから出た意見について、各グループから返答の意見を出してもらったものの確認を行う。それを元に3月に子ども会議(子どもを含めた)を開き、子どもに返答して

いく。

【今年度の子ども会議の反省】

- ・子どもからやりたい事を出してもらい、夏のお楽しみ会を実行することが出来て良かった。子どもの意見が叶ったことで、その後子ども会議の場で子どもから意見が出やすくなったように感じる。
- ・みんなの声に意見が入っていなかった。みんなの声の設置場所を検討した方が良いのではないかな。来年度みんなの声の設置場所の確認を行う際に、子どもから設置場所の意見を聞き取り、検討する。
- ・子ども会議の日程について、子どもから「今月はやるの？」といった声があった。そのため定期的に行うことを目的に月の○週目の○曜日にやると決めたほうがよいのではないかな。日程については来年度検討する。
- ・子ども会議で出た意見を各グループに回し、子どもの意見を職員同士で共有する事が必要。また、早く返答してあげたいと思いその場で子ども会議のメンバーだけで考えて返答することがあったが、一度持ち帰り他の職員の意見も聞き返答していくことが必要だと感じた。

③食育会議グループ

- ・子ども達に好きな肉料理、魚料理、ラーメンの味のランキングを各グループで決めてもらい献立に取り入れた。
- ・畑で栽培した野菜を収穫して、メニューに取り入れることによって子ども達も積極的に野菜を食べてくれるようになり収穫するのを楽しみにしている様子が見れるようになった。
- ・食育の一環として工場見学を行う予定だったが、コロナウイルス感染拡大のため中止した。

④生活支援グループ

令和2年4月21日（火） 参加者 高橋、後藤（華）、桑原、大根田、長谷川

- ・4月以降の実施状況の振り返り
- ・今年度に活動内容の確認。(例年行っているものの他に令和2年度はコロナウイルス感染予防のため、手すりや取っ手を消毒することになる。)

令和2年10月21日（水） 参加者 高橋、後藤（華）、桑原、大根田、長谷川

- ・園庭などの清掃

令和2年12月15日（火） 参加者 高橋、後藤（華）、桑原、大根田、長谷川

- ・市内でもコロナウイルス感染者の増加に伴い、手すり等だけでなく、管理棟・共通部分での床も消毒を徹底する。又どのように行うかを検討する。

令和3年2月16日（火） 参加者 高橋、後藤（華）、桑原、大根田、長谷川

＜今年度の反省＞

- ・今年度はコロナウイルス感染予防の点から、児童就寝後に、管理棟、共通箇所（ミーティングや廊下、子ども玄関等）を、次亜塩素酸で消毒を行った。
- ・ゴミステーションの掃除などが疎かになったので、生活支援グループ内での係分担を徹底することで定期的に行うことが出来たのではないかなと思う。

- ・子ども玄関の掃除やミーティングルームの清掃を行うことが出来た。

＜来年度への引き継ぎ＞

- ・まだまだ、コロナウィルス感染予防の観点から継続して消毒は行うようにしていった方が良いのではないかと思います。
- ・支援グループ内で月毎に係分担するなどし、偏りがないように清掃等行うと良いのではないかと思います。
- ・今年度はひだまりグループの畳を張り替えている。来年度はそのほかの畳の張替えを検討していく。

9. 総括

コロナウィルスに振り回される1年であったが、幸いなことの職員・子ども共々感染することなく元気に過ごせたことは何よりであった。近年入所児童の数が減ってきており、定員を維持することがなかなか難しくなっている。さらに職員も募集をかけてもあまり集まらない状況も鑑み、近い将来の定員減や施設のあり方なども大いに検討していかなければならないと感じているところである。

しかしながら子どものケアに対する思いは時代が変わってもそうそう変わるものではないはずであるため当法人の理念「養徳器成」、「明るく・素直に・温かく」をモットーに、児童福祉のさらなる向上に努めていきたい。

令和2年度事業報告（児童家庭支援センターちゅうりっぷ）

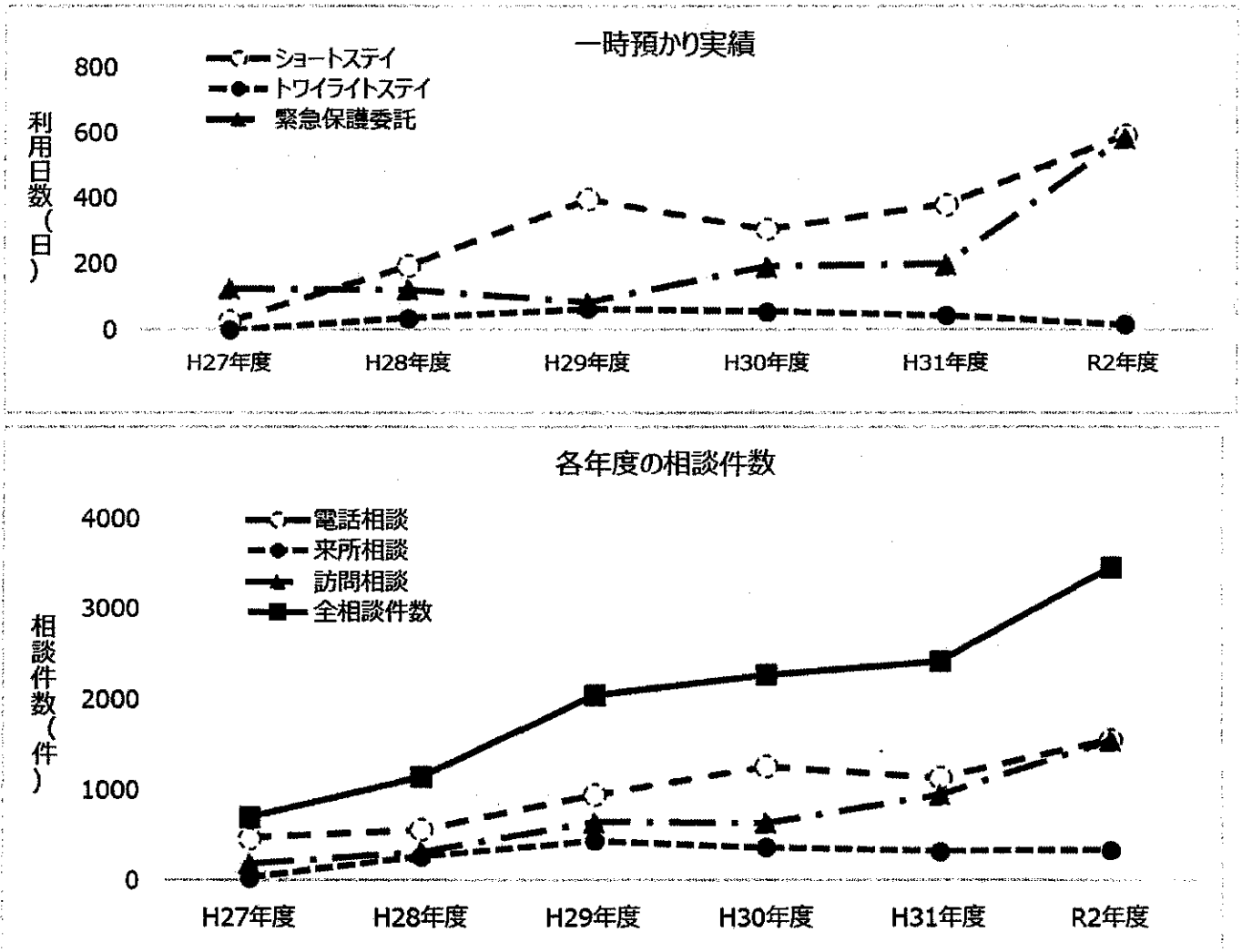
2021（令和3）年3月31日

【相談件数、一時預かり等件数について】

令和2年度、各相談のうち、昨年度と比べ訪問相談が62%、電話相談が37%増加した。一時預かりでは、ショートステイと緊急一時保護委託が昨年の件数を越え、トワイライトステイは微減となった。また緊急一時保護委託で長期にあずかる子が多かったことも特徴的だった。全相談件数は昨年度より43%増加し3470件となった。

【子育て短期支援事業の契約市町について】

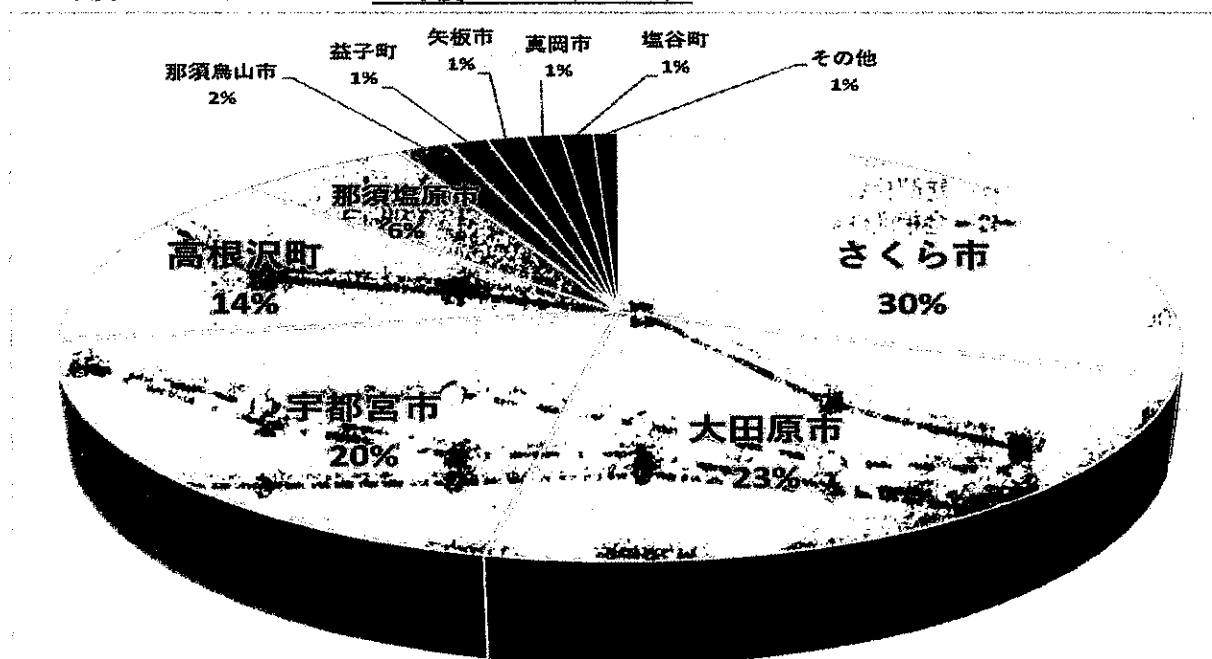
令和2年度、茂木町が新たにショートステイ、トワイライトステイの契約を行った。養徳園との子育て短期支援事業契約市町は7市8町になった。ただし、契約後、子育て短期支援事業の実際の利用や相談件数には、地域差がある。



	H30 年度	H31(R 元) 年度	R2 年度
ショートステイ	159 件 306 日 (実数 47 人)	173 件 383 日 (実数 43 人)	222 件 594 日 (実数 50 人)
トワイライトステイ	57 件 57 日	44 件 44 日 (実数 12 人)	17 件 17 日 (実数 6 人)
緊急一時保護委託	9 件 192 日 (実数 9 人)	10 件 199 日 (実数 10 人)	16 件 584 日 (実数 13 人)
入所	—	1 件 59 日 (実数 1 人)	2 件 36 日 (実数 2 人)
里親レスパイト	—	—	1 件 3 日 (実数 1 人)
子育て短期支援事業契約市町	ショート 5 市 6 町 (新規・益子町) トワイライト 2 市 1 町	ショート 7 市 7 町 (新規・日光市、真岡市、市貝町) トワイライト 2 市 2 町 (新規・市貝町)	ショート 7 市 8 町 (新規・茂木町) トワイライト 2 市 3 町 (新規・茂木町)
要対協への参加	7 市町 (新規・塩谷町)	7 市町	7 市町
指導委託	2 件	3 件	6 件
電話相談	163 ケース 1261 件	162 ケース 1141 件	169 ケース 1560 件
来所相談	370 件	327 件	341 件
訪問相談	646 件	956 件	1548 件
全相談件数	2279 件	2424 件	3470 件

※子育て短期支援事業、緊急一時保護委託、入所、里親レスパイトによる実稼働日数

H31 年度 300 日 (82.0%) → R2 年度 352 日 (96.4%)



ちゅうりっぷ相談件数の市町別割合 (指導委託含む)

○訪問件数の増加について

- ・一時保護中の子どもの保育園、高校への送迎により相手機関との情報共有が必要だった。
- ・コロナ禍で子どもの安否確認や支援の確認など児童相談所、市町への状況確認を続けていた。

○MYTREE ペアレンツ・プログラムを R2 年 11 月～R3 年 3 月まで行った。(那須塩原市、さくら市、塩谷町から計 5 名参加) 参加者の感想として、自分を振り返り、子どもに怒りが爆発してしまう裏側に自分への無力感、悲しみ、絶望感を感じた。自分がとるに足らない存在と思って生きてきたが、尊重されていいんだという気づきがあった。

○子育て短期支援事業や一時保護委託など、子どもを預かる要求が高まる一方で、一時預かりができない(お断りする) ことが増えている。(定員 4 名)

○指導委託のケースがちゅうりっぷの一時保護になるケースや、一時保護だが保育園の送迎を毎日行ったため、手厚くかわる指導委託と言ってもよいようなケースがあった。

○コロナ禍で子どもの一時預かりをするうえで、手洗い、マスクなどのほか、体温など体調管理の維持に気を遣った。

○発達障害、知的障害を持つ子どものショートステイが減っている。(放課後等デイサービス事業所が増加している。)

〔来年度(令和 3 年度)に向けて〕

○関係機関と連携を図りながら困難事例へのソーシャルワークを充実させる。訪問(アウトリーチ)を重ねることで信頼関係を作りつつ、当事者が自らの力で問題を解決する道筋を立てる支援を行う。

○子育て短期支援事業(緊急一時保護委託)について、子どもの心地よい居場所となり、保護者のレスパイトと同時に、保護者のより良き理解者となる支援を目指す。

○児家センが地域の子育てを支える行くためには(さくら市) 子ども家庭総合支援拠点においても安心して子どもを育てる環境を作っていくことが重要だ。要支援児童だけでなく一般の子どもも里親のショートステイを利用できるよう準備を進める。

○地域共生社会に向けた安心できる子どもの居場所づくりや生活困窮世帯へフードバンクのような緊急支援の検討を行う。

○MYTREE ペアレンツ・プログラムを R3 年 9 月より県北地区(大田原市)で行う。

以上

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
延べ件数	19	14	23	27	24	17	18	16	17	12	19	16	222
延べ日数	44	33	52	58	76	50	43	39	43	36	59	61	594
延べ件数	0	0	5	2	0	0	2	2	2	3	1	0	17
延べ日数	0	0	5	2	0	0	2	2	2	3	1	0	17
延べ件数	2	1	4	5	1	4	4	2	3	0	2	2	30
延べ日数	39	31	71	68	21	69	68	60	69	0	38	62	596

市町別実利用者人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
宇都宮市		3	3	3	7	6	7	3	6	5	3	4	8
日光市		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大田原市		6	6	4	5	7	7	4	4	3	3	6	3
矢板市		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
那須塩原市		2	2	2	2	2	0	0	2	2	2	2	0
さくら市		3	1	1	2	3	1	3	1	3	1	2	1
益子町		0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2
市貝町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芳賀町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
塩谷町		0	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0
高根沢町		2	1	3	2	1	0	2	0	0	1	1	0
那須町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
那珂川町		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
真岡市		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	13	13	17	20	20	15	14	16	13	11	17	14

トワイライトステイ実利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
矢板市		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さくら市		0	0	5	2	0	0	1	1	2	1	1
計		0	0	5	2	0	0	1	1	2	1	1

*【時間帶別受審件数】

選挙区別 選挙区	選挙区以外の有権者				選挙区からの有権者				選挙区からの有権者				その他				計	
	中央	県南	県北	不明	中央	県南	県北	不明	中央	県南	県北	不明	中央	県南	県北	不明		
1	30	21	14	1	14	1	1	1	2	11	4	1	17				64	
2	24	24	22	1	22	5	2		7	12	8	5	25				78	
3	19	21	20	1	34	2	1		3	16	8	4	28				87	
4	21	25	11	1	35	5	3	1	6	12	8	8	27				94	
5	8	8	10	4	2	24	3	2	1	6	17	7	27				65	
6	3	4	7	12	3	22	3	4	1	9	10	1	20				54	
7	6	7	3	5	3	1	2	1	3	6	8	2	17				39	
8	4	5	2	5	2	9	4	2	2	6	6	2	8				30	
9	2	2	3	1	1	5	1	1	2	2	2	3	5				14	
10	2	2	3	1	1	3	2	1	3	3	3	1	4				12	
11	1	1	1	1	1	2	1		2	2	1		4				7	
12	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4				7	
13	6	7	1	2	3	3	1		4	1	1		4				14	
14	6	6	1	2	5	1	2		3	1	1	1	3				17	
15	29	29	3	2	12	2	2	2	4	8	4	1	12				57	
16	29	29	2	3	5	2	2		2	1	2	1	4				11	
17	6	6	5	1	12	4	1	2	7	5	5	2	12				37	
18	6	6	5	2	16	4	1		6	5	5	1	11				39	
19	7	7	3	4	2	16	2	3	1	6	1	3	6				34	
20	7	7	3	5	1	11	3	1	1	5	3	1	5				28	
21	9	9	2	7	4	13	2	2	4	3	5		8				34	
22	12	10	3	2	2	7	1	2	1	4	5	4	11				37	
23	11	11	8	2	3	13	1	3	3	6	4		10				37	
24	6	6	9	8	2	1	6	10	3	6	4		14				48	
計	12	2	1	229	244	116	118	56	36	9	2	103	149	95	35	4	253	945

・【虚特通告以外の相腰の内訳】

区別	産地別額	集積額(産地別集積額)	集積相抵	集積引渡	歩行相抵	買成相抵	その他の相抵	計
中央	1	42		1	4	27	41	116
黒南	1	44			3		43	118
東北		23	1			17	16	56
不明		6			1		6	11
計	2	115	1	1	8	93	93	313

(単位: 株)

*【虚待通告経路の内訳】

府州	家族	親戚	兄弟・ 姉妹	同居 者數	同居 男女別	既婚夫婦	既婚 夫婦數	既婚夫婦 男女別	未婚者	未婚者 男女別	計
中央	28	4	67	19	1			2	1	16	149
臺灣	21	2	43	8				2		6	95
臺北	10	1	13	3						5	33
不明				1						4	3
計	67	7	123	31	1		2	3	27	3	283

*【関係機関連絡における内訳】

別用	別用所	別用所 別用所	別用所 別用所	別用所 別用所	別用所 別用所	別用所 別用所	別用所 別用所
中央	1	5	17	27	1	5	59
東京	1	2	14	16	1	2	30
東北	1	2	1	4	1	9	1
不明					2	2	2
計	1	8	32	47	2	10	103

令和2年度 南小学童保育センター年間行事報告

1.活動のねらい

1. 安全と安心を第一目的とし、心休まるアットホームな居場所を提供する。
2. 家庭との連携をはかり、不測の事態に的確に対応できるよう努める。
3. ボランティア団体等と連携をし、地域の中で豊かな心身を育む。

2.在籍児童数 令和2. 4. 1現在 196名

		男	女	計
1年	A	25	25	50
2年	E	23	21	44
3年	B	19	25	44
4年	C	15	14	29
5年	D	10	7	17
6年	D	7	5	12
		99	97	196

3. 主な行事 ①1・3年生(A・B センター)

主な行事	月日	参加人数A	参加人数B	主な行事		参加人数A	参加人数B
母の日カード製作	5/7	10	5	敬老の日プレゼント製作	9/15	41	33
父の日カード製作	6/16	45	35	誕生会	9/30	39	30
誕生会	6/30	43	33	誕生会	10/30	41	32
七夕飾り製作	7/1	40	33	ハロウィンお面製作	10/27	40	30
誕生会	7/31	45	33	ハロウィンパーティー	10/30	41	32
工作教室	8/3	27	19	七五三お祝い	11/13	35	31
工作教室	8/5	28	18	誕生会	11/30	39	29
お楽しみ会	8/4	27	18	避難訓練	12/4	34	28
誕生会	8/31	41	34	クリスマス飾り製作	12/1	41	32
				Xmas会	12/16	37	30
				誕生会	12/23	37	31
				絵馬・こま製作	1/6	37	30
				誕生会	1/29	39	32
				節分の祝い	2/2	42	31
				雛飾り製作	2/22	39	29
				誕生会	2/26	34	28
				ひな祭り	3/3	35	31
				おたのしみ会	3/18	38	30

主な行事 ②2年生(E分室)

主な行事	月日	参加人数E	主な行事	月日	参加人数E
母の日カード製作	5/7	17	敬老の日プレゼント製作	9/15	41
父の日カード製作	6/16	42	誕生会	9/30	40
誕生会	6/30	43	誕生会	10/30	39
七夕飾り製作	7/1	42	ハロウィンお面製作	10/27	41
誕生会	7/31	41	ハロウィンパーティー	10/30	39
工作教室	8/3	27	七五三お祝い	11/13	42
工作教室	8/5	29	誕生会	11/30	42
お楽しみ会	8/4	29	避難訓練	12/4	
誕生会	8/31	42	クリスマス飾り製作	12/1	43
			Xmas会	12/16	42
			誕生会	12/23	39
			絵馬・こま製作	1/6	38
			誕生会	1/29	43
			節分の祝い	2/2	42
			誕生会	2/22	43
			誕生会	2/26	40
			ひな祭り	3/3	40
			おたのしみ会	3/18	42

③4～6年生(C・D プール棟)

主な行事	月日	参加人数C	参加人数D	主な行事	月日	参加人数C	参加人数D
母の日カード製作	5/7	4	5		9/15	18	18
父の日カード製作	6/16	21	22	誕生会	9/30	20	20
誕生会	6/30	19	23	誕生会	10/30	17	17
七夕飾り製作	7/1	17	21	ハロウィンお面製作	10/27	18	18
誕生会	7/31	19	22	ハロウィンパーティー	10/30	17	17
工作教室	8/3	16	20	七五三お祝い	11/13	35	35
工作教室	8/5	14	17	誕生会	11/30	17	17
お楽しみ会	8/4	14	17	クリスマス飾り製作	12/17	15	22
誕生会	8/31	17	24	Xmas会	12/16	13	13
				誕生会	12/23	16	16
				絵馬・こま製作	1/6	16	16
				誕生会	1/29	17	17
				節分の祝い	2/2	15	15
				誕生会	2/26	17	17
				6年生を送る会	3/8		22
				ひな祭り	3/3	16	23
				おたのしみ会	3/18	18	